

平成 26 年度市民意識調査の集計概要

1. 調査の目的

この調査は、基本構想基本計画で定めた施策の成果指標を測定する手段の一つとして、市民の生活実態や活動状況及び市政に対する関心などを把握するとともに、今後、市民の皆さんとの協働によって市政運営やまちづくりなどの施策を進めるための基礎資料として活用するために実施しました。

2. 調査の設計

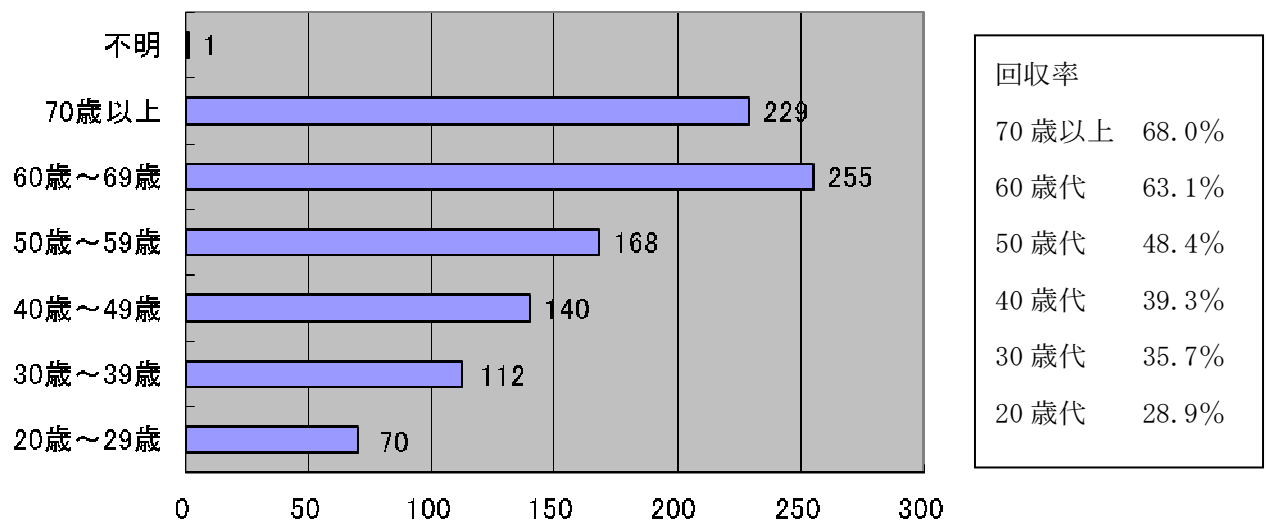
この調査は、次のとおり設計しました。

- (1) 調査対象 飯田市内在住の満 20 歳以上の男女
- (2) 調査対象者数 2,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から地区別、男女別、年齢別人口比率を調整し無作為抽出しました。
- (4) 調査時期 平成 27 年 2 月 6 日～2 月 28 日
- (5) 調査方法 郵送による

3. 回収結果

有効回収数 975 人（回収率 48.8%）
内訳 男：434 人、回収率 43.9%
女：537 人、回収率 53.1% ※ 性別不明：1 人

<年代別回収状況と回収率>



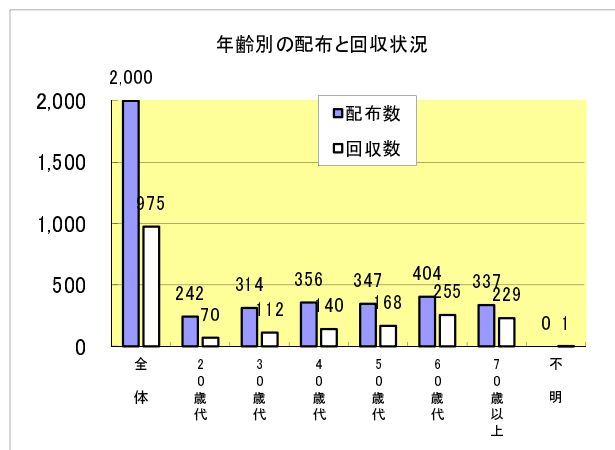
市民意識調査回収状況

問1. あなたの住んでいる地区は

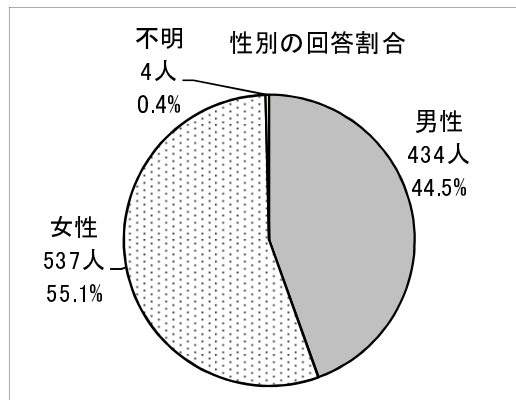
地区別	配布数			回収数				回収率
	男	女	計	男	女	不明	計	
全 体	988	1,012	2,000	434	537	4	975	48.8%
橋 北	29	30	59	16	13	0	29	49.2%
橋 南	27	27	54	14	17	0	31	57.4%
羽 場	48	49	97	20	23	0	43	44.3%
丸 山	34	35	69	16	18	0	34	49.3%
東 野	30	31	61	13	18	0	31	50.8%
座光寺	44	44	88	19	26	0	45	51.1%
松 尾	116	130	246	43	63	2	108	43.9%
下久堅	30	29	59	14	15	0	29	49.2%
上久堅	14	12	26	5	8	0	13	50.0%
千 代	18	17	35	11	10	0	21	60.0%
龍 江	27	28	55	15	13	0	28	50.9%
竜 丘	67	64	131	32	40	0	72	55.0%
川 路	20	19	39	13	11	0	24	61.5%
三 穂	15	15	30	6	5	0	11	36.7%
山 本	47	46	93	18	21	0	39	41.9%
伊賀良	139	141	280	65	67	0	132	47.1%
鼎	127	137	264	51	74	1	126	47.7%
上 郷	138	139	277	53	79	1	133	48.0%
上 村	4	5	9	2	5	0	7	77.8%
南信濃	14	14	28	6	9	0	15	53.6%
不 明	0	0	0	2	2	0	4	

問2. あなたの年齢は

年代別	配布数			回収数				回収率
	男	女	配布数	男	女	不明	回収数	
全 体	988	1,012	2,000	434	537	4	975	48.8%
20歳代	120	122	242	29	41	0	70	28.9%
30歳代	162	152	314	43	69	0	112	35.7%
40歳代	182	174	356	55	85	0	140	39.3%
50歳代	171	176	347	79	89		168	48.4%
60歳代	198	206	404	123	132	0	255	63.1%
70歳以上	155	182	337	105	121	3	229	68.0%
不 明	0	0	0	0	0	1	1	



問3. あなたの性別は

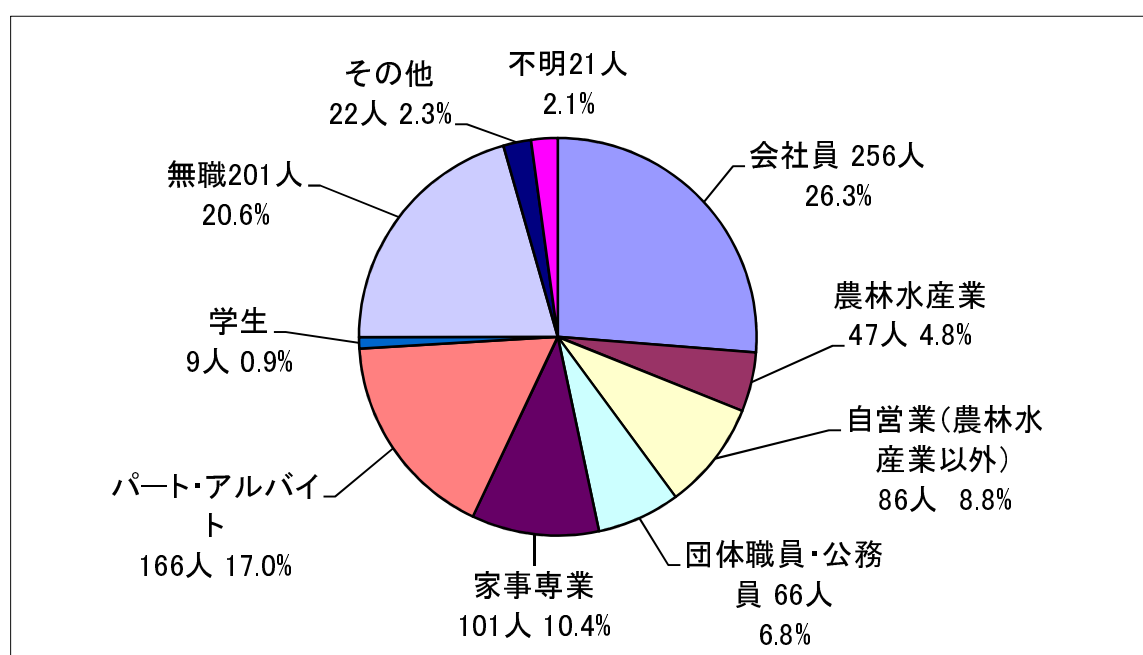


市民意識調査回収状況

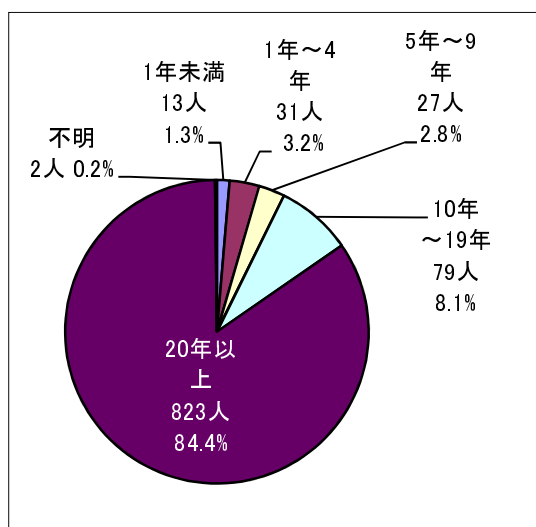
問4. あなたの職業

(人)

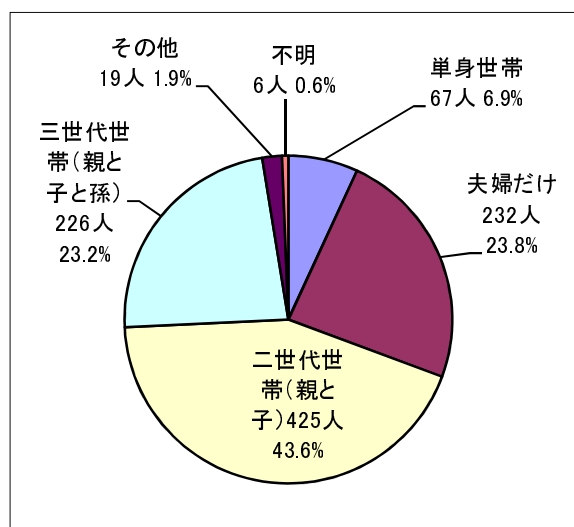
職業区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不 明	全 体
全 体	70	112	140	168	255	229	1	975
会社員	30	47	60	68	43	8	0	256
農林水産業	1	1	3	5	16	21	0	47
自営業(農林水産業以外)	0	4	9	18	31	24	0	86
団体職員・公務員	6	12	15	22	9	2	0	66
家事専業	9	20	12	10	30	20	0	101
パート・アルバイト	10	22	30	31	62	11	0	166
学 生	9	0	0	0	0	0	0	9
無 職	4	5	7	9	53	122	1	201
その他	0	0	3	3	8	8	0	22
不 明	1	1	1	2	3	13	0	21



問5. 飯田市での居住年数は

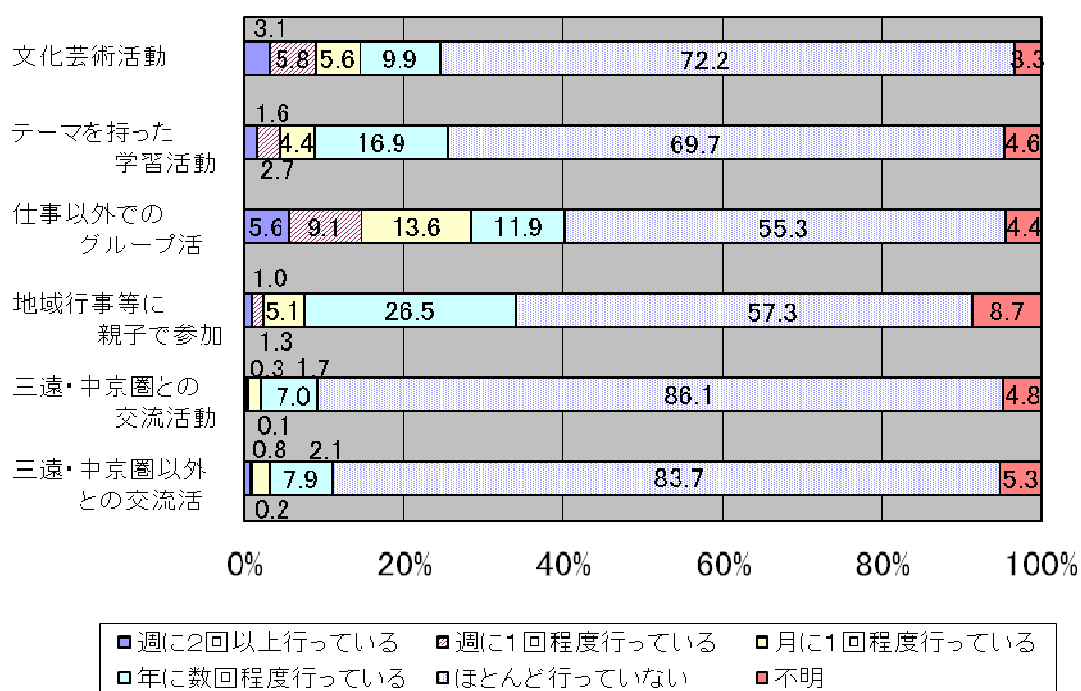


問6. あなたの世帯構成は



< 日頃の暮らしや行動について >

日頃の暮らしや行動の傾向



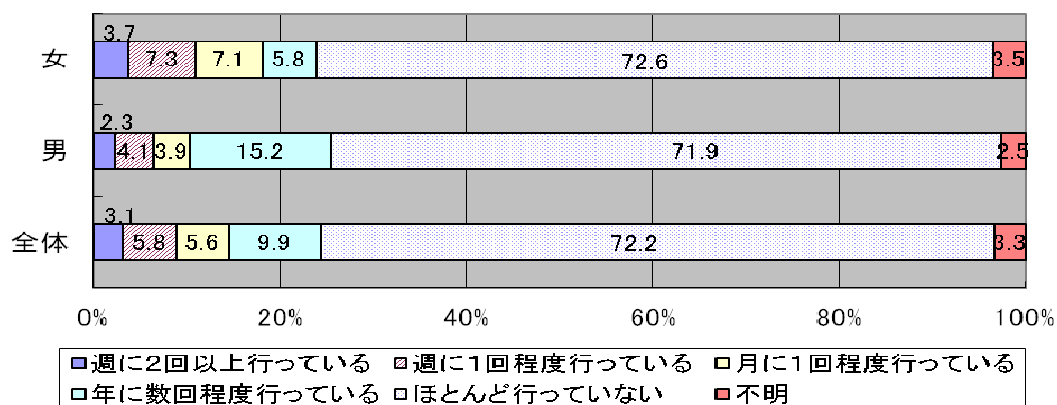
※以後、[] 内は前年度の数値

問7-1 文化芸術の活動をどの程度行っていますか？

対象施策：文化芸術の振興
成果指標：文化芸術活動を行っている人の割合
調査結果：24.4%（年に数回以上行っている市民の割合）[26.6%]

- 例示として、楽器演奏、コーラス、詩吟、絵画、陶芸、演劇、人形劇、太鼓、民踊、書道、茶道、華道、写真をあげて質問してみたが、「ほとんど行っていない」が72.2% [70.4%] で、年に数回以上活動をしている人の割合 24.4%（女性：23.9% [29.5%]、男性：25.5% [22.4%]）[26.6%] を大きく上回った。
- 「ほとんど行っていない」割合を年代別で見ると、概ね年齢に比例して率が下降していく傾向にある（最高値：30歳代 92.0%、最低値：70歳代 55.9%）。

文化芸術活動の頻度（男女別）



問7-2 日頃から学習のテーマを持って、学習活動にどの程度取り組んでいますか？

対象施策：学習交流活動の推進

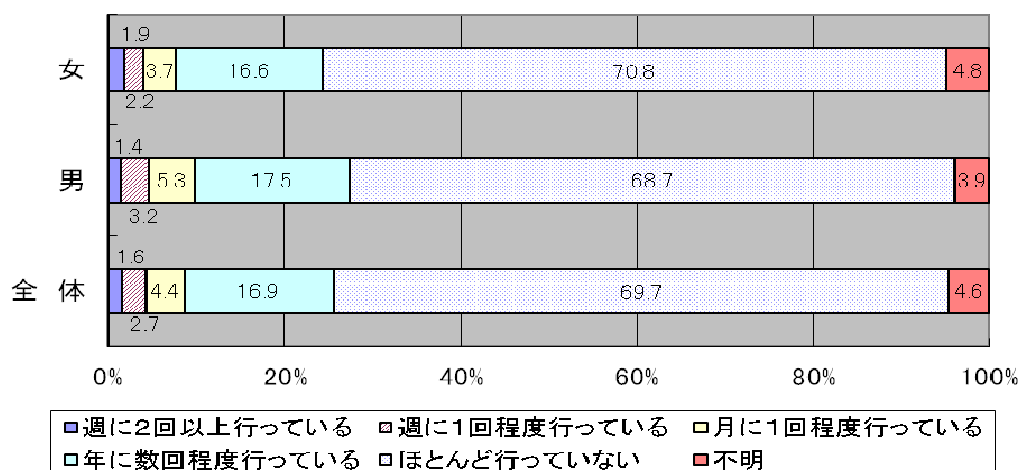
成果指標：学習活動を行っている市民の割合

調査結果：25.6%（年に数回程度以上行っている市民の割合）[27.7%]

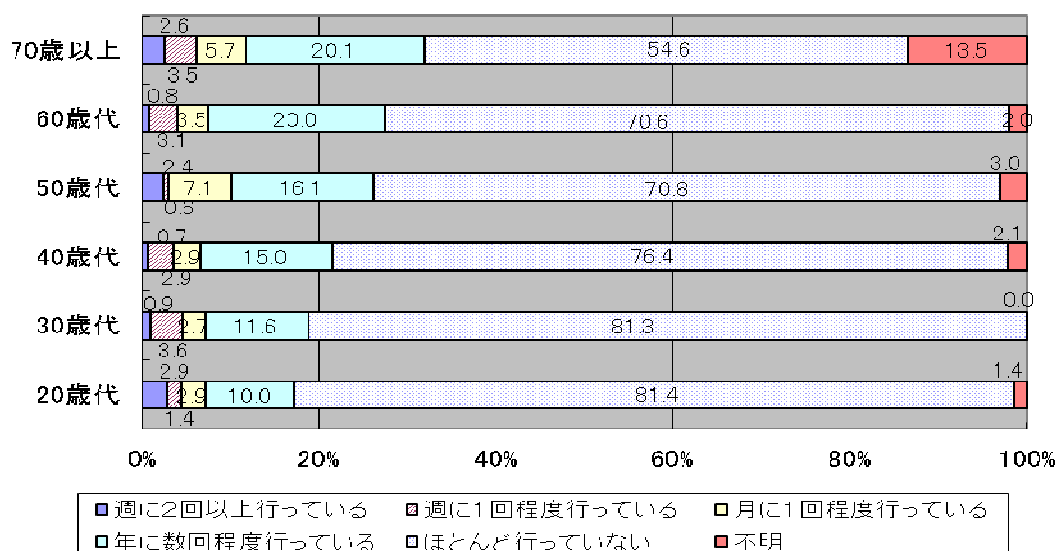
【7-1の一部含むと36.0%[37.3%]】

- 全体として、テーマを持って学習活動に取り組んでいる割合は25.6%（女性：24.4%[28.9%]、男性：27.4%[26.1%]）[27.7%]で、ほぼ市民の4人に1人である。
- 「ほとんど行っていない」割合を年代別で見ると、20歳代、30歳代が80%を超えており、年齢の上昇と比例して率は低下していく（最高値：20歳代81.4%、最低値：70歳以上54.6%）。
- ここで「ほとんど行っていない」または「不明」と答えた725人[701人]のうち101人[93人]、10.4%[9.6%]は、問7-1で文化芸術活動を「年に数回程度行っている」以上の回答をしており、広い意味で学習活動に関わっていると見られる。そこで、成果指標に関わる調査結果としては、25.6%+10.4%=36.0%[27.7%+9.6%=37.3%]と捉えてみた。

テーマを持った学習活動の頻度（男女別）



テーマを持った学習活動の頻度（年代別）



問 7-3 仕事以外でグループに加入し、活動する機会がどの程度ありますか？

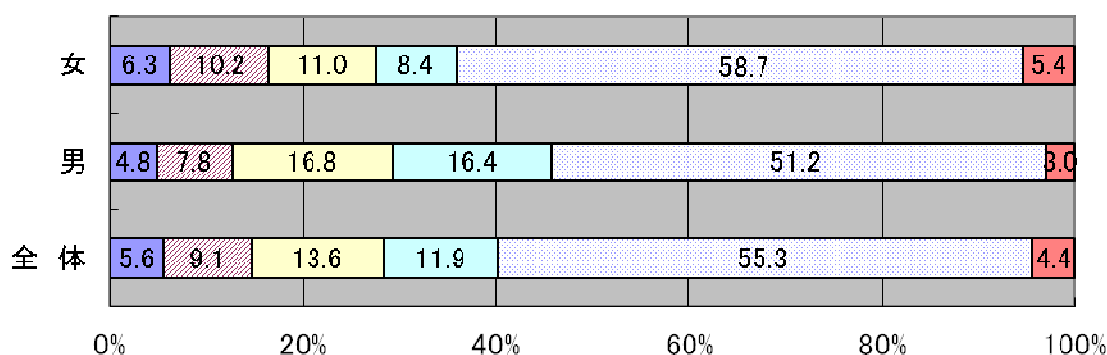
対象施策：学習交流活動の推進

成果指標：家族や職場以外で交流がある市民の割合

調査結果：40.2%（年に数回程度以上行っている市民の割合）[43.3%]

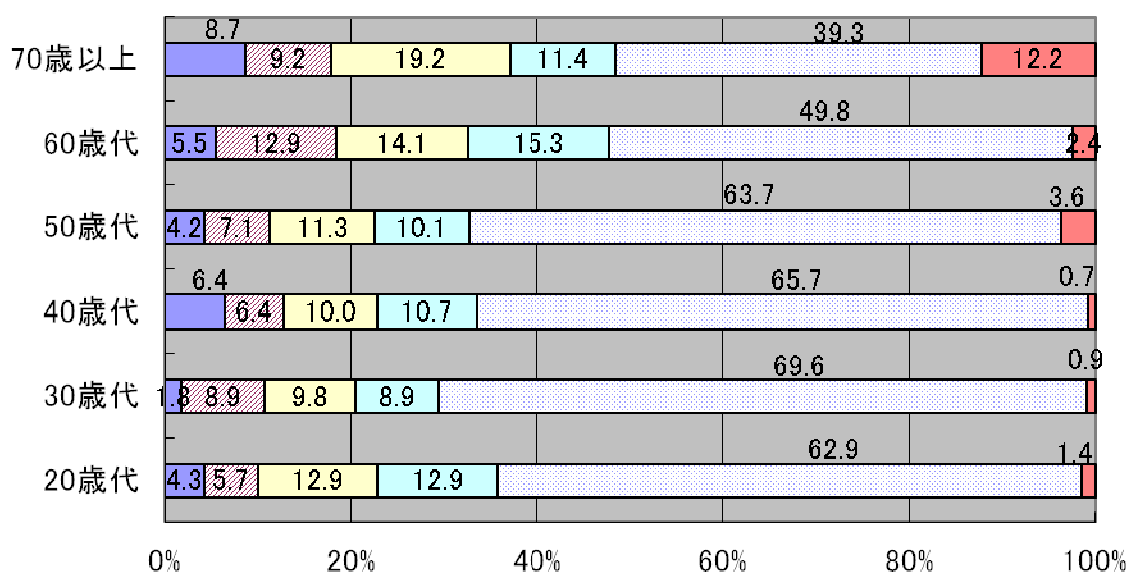
- 趣味のサークル活動を含めて質問したところ、年に数回以上活動をしている人の割合は全体で 40.2%（女性：35.9% [41.0%]、男性：45.8% [46.0%]）[43.3%] だった。
- 活動をしている割合を年代別で見ると、年齢の上昇に比例して率も上昇していく。（最高値：70 歳以上 48.5%、最低値：30 歳代の 29.4%）

仕事以外でグループ活動する頻度（男女別）



■ 週に2回以上行っている ■ 週に1回程度行っている ■ 月に1回程度行っている
 ■ 年に数回程度行っている ■ ほとんど行っていない ■ 不明

仕事以外でグループ活動する頻度（年代別）



■ 週に2回以上行っている ■ 週に1回程度行っている ■ 月に1回程度行っている
 ■ 年に数回程度行っている ■ ほとんど行っていない ■ 不明

問7-4 地域の行事や活動に親子（小中学生まで）でどの程度参加していますか？

（対象：子どもを持つ651世帯）

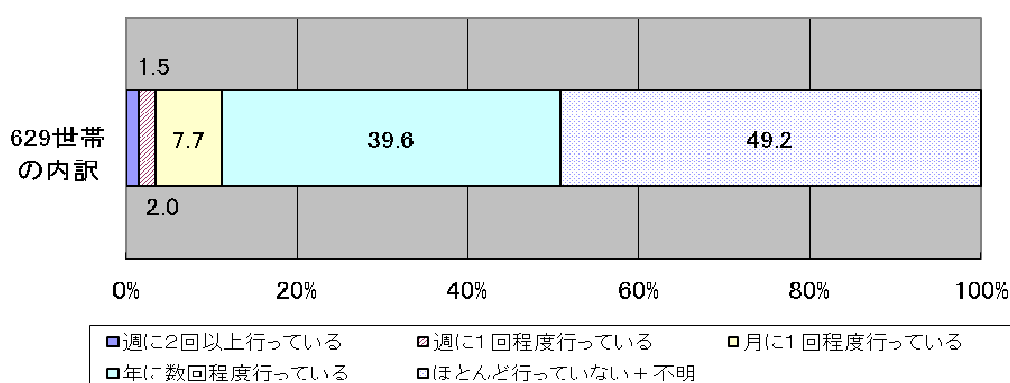
対象施策：家庭教育の充実

成果指標：地域行事・地域活動に親子で参加している割合

調査結果：50.8%（「年に数回程度以上参加している」割合）[56.4%]

- 問6から、今回の調査回答者のうち子どもを持つ世帯数は651（二世帯世帯：425、三世帯世帯：226）[629]となっている。そこで、この世帯数を対象にして地域行事や地域活動に親子で参加している割合を求めることにした。
- 回答状況を見ると、「週に2回以上行っている」：10人、「週に1回以上行っている」：13人、「月に1回程度行っている」：50人、「年に数回程度行っている」：258人となっており、「年に数回程度以上行っている」と答えた人はあわせて331人[355人]で50.8% [56.4%] である。

地域行事等に親子で参加する頻度



問7-5 三遠地域・中京圏の住民やグループとの交流活動をどの程度行っていますか？

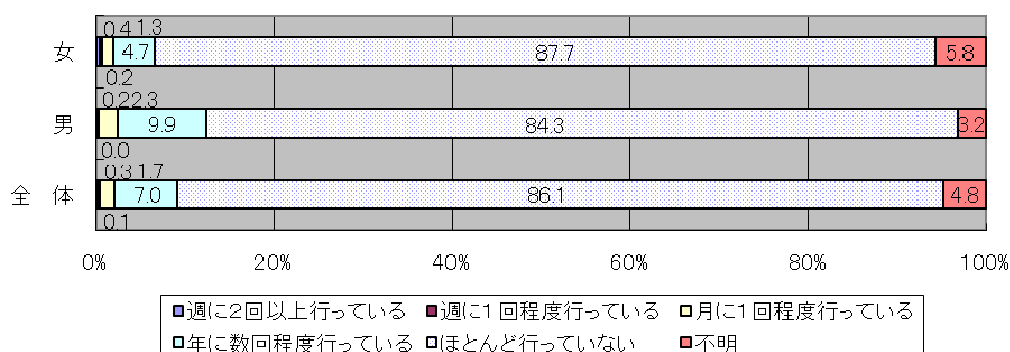
対象施策：三遠南信・中京圏の連携促進

成果指標：都市間交流に参加している市民の割合

調査結果：9.1%（年に数回程度以上行っている市民の割合）[9.2%]

- 将来的に飯田市を含めた南信州地域とさらに深い関わりを持つと思われる地域との交流の状況を質問したが、現段階では交流している人の割合は9.1%（女性：6.6%[7.1%]、男性：12.4% [11.7%]）[9.2%] という数値を示した。
- 年代別に交流割合を見ると、20歳代と50歳代が10%を越え（最高値：20歳代14.2%）、30～40歳代及び60～70歳代が10%を下回っており（最低値：30歳代5.4%）、特段、年齢層による傾向は見られない。

三遠地域・中京圏との交流活動の頻度



問 7－6 三遠南信地域・中京圏を除く住民やグループと交流活動をどの程度行っていますか？

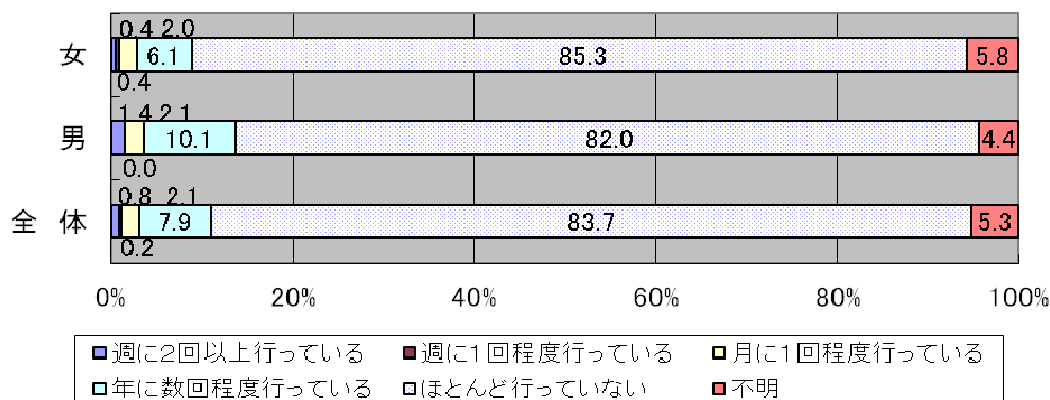
対象施策：都市間交流の推進

成果指標：都市間交流に参加している市民の割合

調査結果：11.0%（年に数回程度以上行っている市民の割合）[11.1%]

- 三遠南信地域・中京圏を除いた地域について見ると、交流している人の割合は、11.0%（女性：8.9% [9.0%]、男性：13.6% [13.7%]）[11.1%] となっている。
- 年代別に交流割合を見ると、年代によりバラツキがあり、特段、年齢層による傾向は見られない（最高値：20歳代 17.1%、最低値：30歳代 6.3%）。

三遠南信・中京圏以外との交流活動の頻度



問 8 ウォーキングやスポーツをどの程度行っていますか？

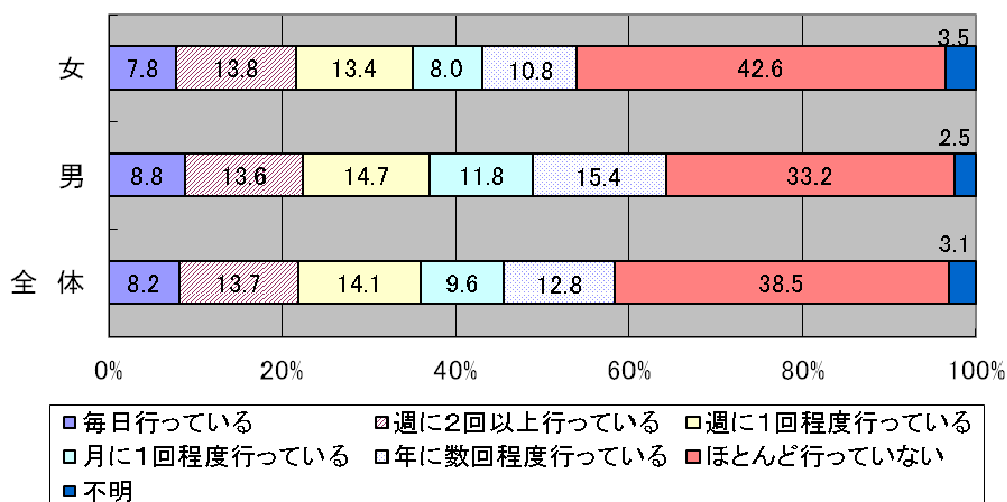
対象施策：スポーツの振興

成果指標：ウォーキングやスポーツを行っている市民の割合

調査結果：36.0%（週に1回以上行っている市民の割合）[38.8%]

- 国では「週に1回以上のスポーツ実施率 50%」を目標に掲げている。飯田市で見ると、ウォーキングやスポーツを週1回以上行いう割合は、36.0%（女性：35.0%[37.39%]、男性：37.1%[41.0%]）[38.8%] で、前回と同様に男性の方が若干高くなっている。
- 年代別に「週に1回以上行っている割合」を見ると、概ね年齢に比例して上昇していく傾向にある（最低値：20歳代 22.9%、最高値：70歳以上 45.5%）。

ウォーキング・スポーツをする頻度



問 9 環境に関する学習会や環境に関する知識を高めるような行事（講演会・研修会・イベントなどに関わったり、参加したりしていますか？

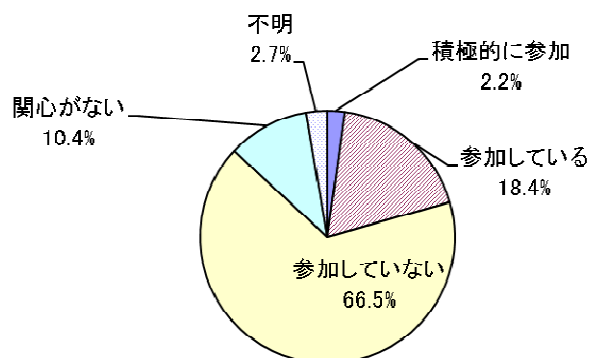
対象施策：自然とのふれあいと環境学習の推進

成果指標：環境学習会に参加したことのある市民の割合

調査結果：20.6%（「積極的に参加」＋「参加」の割合）[24.3%]

- 「積極的に参加している」と「参加している」を合わせた割合は、20.6%（男性：24.6% [28.8%]、女性：17.1% [20.7%]）[24.3%] となっている。
- 参加している状況を年代別に見ると、年齢に比例して上昇していく（最低値：20歳代 4.3%、最高値：70歳以上 28.4%）。

環境に関する学習会等へ参加する頻度

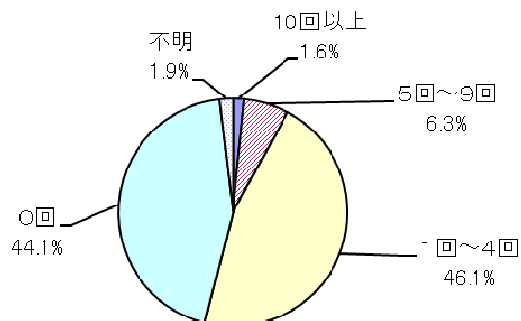


問 10 昨年1年間に、市内外を問わず文化や芸術の鑑賞をどの位行いましたか？

調査結果：54.0%（1回以上鑑賞を行った人の割合）[58.5%]

- 1回以上鑑賞を行った人の割合は 54.0%（女性：56.6% [61.1%]、男性：51.1% [54.9%]）[58.5%] となっている。

昨年1年間の文化芸術鑑賞の頻度



問 11 心身ともに健康だと思いますか？

対象施策：心と体の健康づくり

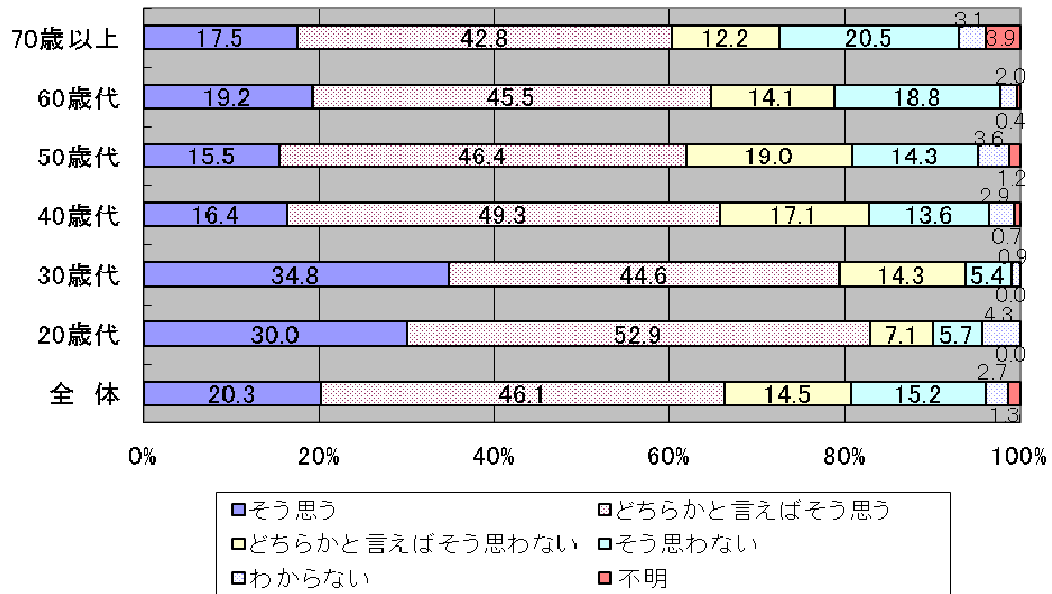
成果指標：心身ともに健康であると感じている市民の割合

調査結果：66.4%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[66.5%]

- 健康状態について質問したところ、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計が 66.4%（女性：66.4% [68.9%]、男性：66.2% [63.2%]）[66.5%] であった。一方、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計が 29.7% [30.3%] もあり、全体の3割程度は健康と感じていないことを示している。

- 健康と感じている人を年代別に見ると、年齢と比例して上昇し、40 歳代をピークに下降に転じる傾向にある（最高値：20 歳代 82.9%、最低値：70 歳以上 60.3%）。

心身ともに健康だと思う



問12 いつでも安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持っていますか？

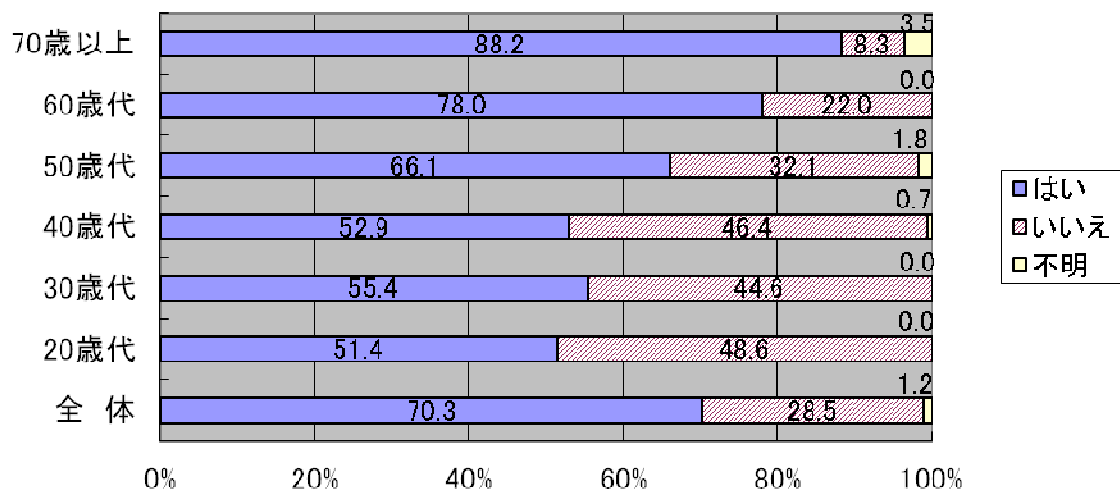
対象施策：医療の充実

成果指標：かかりつけ医を持つ市民の割合

調査結果：70.3%（「はい」と答えた市民の割合）[71.7%]

- いつでも安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持っているかとの質問に対して、全体で「はい」：70.3%（女性：70.8% [72.3%]、男性：69.4% [70.5%]）[71.7%]、「いいえ」：28.5%（女性：28.1% [26.9%]、男性：29.3% [28.5%]）[27.5%]であった。
- かかりつけ医を持っている人を年代別に見ると、年齢に比例して上昇していく。（最低値：20 歳代 51.4%、最高値：70 歳以上 88.2%）。

かかりつけ医を持っている



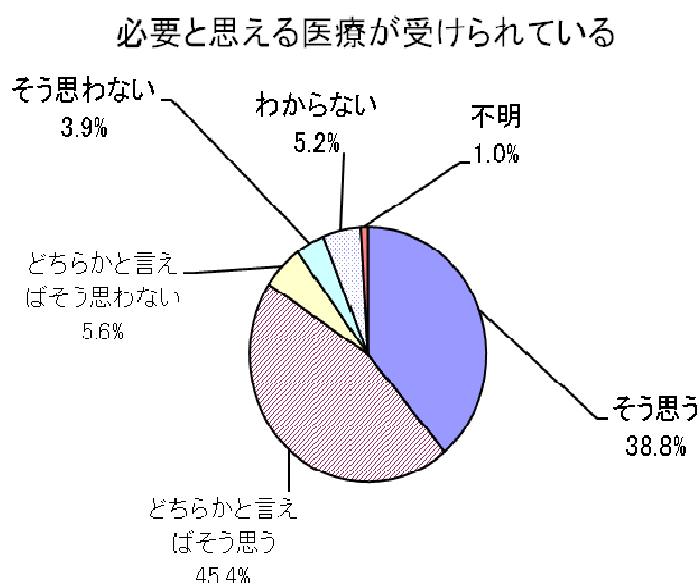
問 1 3 必要と思える医療が受けられていると思いますか？

対象施策：医療の充実

成果指標：必要な医療が受けられていると感じる市民の割合

調査結果：84.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[85.2%]

- 「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせて 84.2%（女性：83.4% [84.0%]、男性：85.0% [86.6%]）[85.2%] となり、8割以上が必要と思える医療が受けられていると感じている。
- 年代別で見ると、40歳代が最も低く 77.2%、その他、各年代バラツキがあり、60歳代が最も高く 89.4%を示した。



問 1 4 家庭や職場、地域の中で、性別・国籍にかかわらず相手の人権を尊重して行動していますか？

対象施策：共に歩む社会づくりの推進

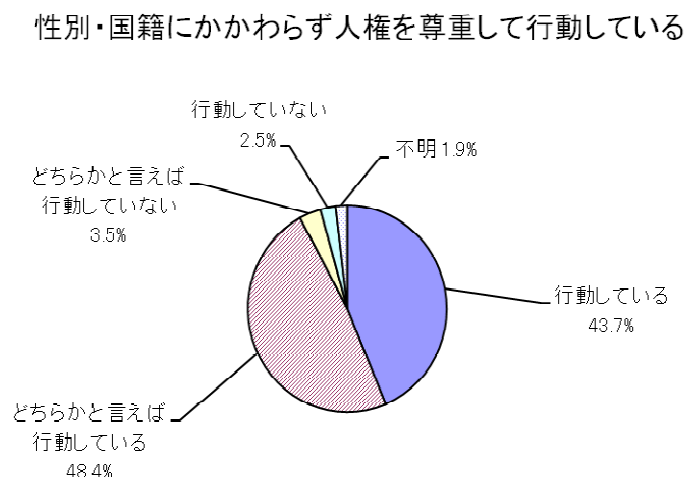
成果指標①：日常生活の中で人権を尊重して行動している人の割合

調査結果：43.7%（「行動している」と答えた割合）[44.6%]

成果指標②：日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合

調査結果：92.1%（「行動している」＋「どちらかと言えば行動している」の割合）[91.9%]

- 「行動している」：43.7%[44.6%] と「どちらかと言えば行動している」：48.4% [47.3%] を合わせて 92.1%（女性：92.6% [93.3%]、男性：92.2% [90.0%]）[91.9%] という9割を超える非常に高い割合で、人権尊重意識を持って行動しているとの回答があった。



問 1 5 地震・火災・豪雨等の災害に対して備えをしていますか？

対象施策：災害対策の推進

成果指標：市民が災害に備えている割合

調査結果：43.7%（下記①～③の3つの質問で「はい」と答えた割合の平均値）[44.5%]

50.9%（下記①～④の4つの質問で「はい」と答えた割合の平均値）[51.9%]

ここでは、① 災害時の避難場所や災害情報を得る方法を知っている

② 7日分以上の食料や飲料水を準備している

③ 家具の転倒防止策をしている

④ 住宅用火災警報器を設置している

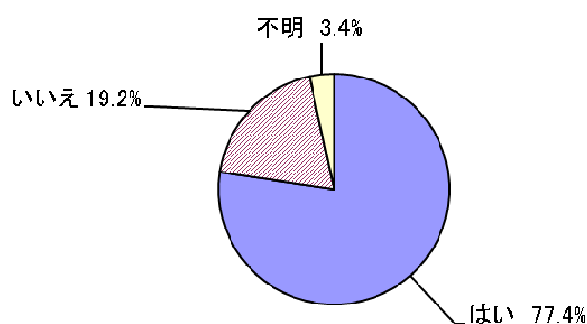
の4項目を調査した。①～③の平均は 43.7% [44.5%] で、①～④の平均は 50.9% [51.9%] であった。

問 1 5－① 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている

調査結果：77.4%（「はい」と答えた割合）[77.3%]

- 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている人は、77.4%（女性：76.4% [74.1%]、男性：79.0% [81.2%]）[77.3%] であった。
- 知っている人の割合を年代別で見ると、60歳代が88.2%と最も高く、逆に最も低かったのは40歳代で67.9%と70%を下回っている。

①災害時の避難場所等を知っている

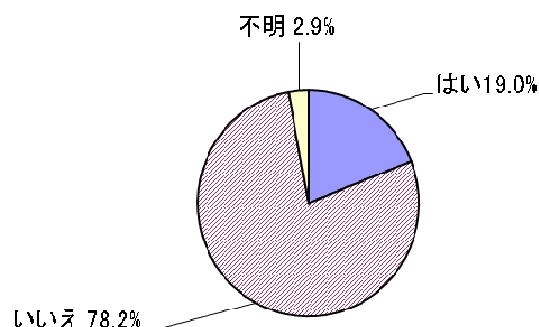


問 1 5－② 7日分以上の食料や飲料水を準備している

調査結果：19.0%（「はい」と答えた割合）[18.1%]

- 食料や飲料水を用意している人の割合は、19.0%（女性 19.0% [17.2%]、男性 18.9% [19.3%]）[18.1%] である。
- 準備している人の割合を年代別に見ると、概ね年代が若くなるほど低い傾向にあり、60歳代以上は20%以上を示しているのに対して、30歳代、40歳代は10%を切っており、60歳代を境に大きな隔りがある（最高値：70歳以上 28.4%、最低値：30歳代 7.1%）。

②7日分以上の食料・飲料水を準備している

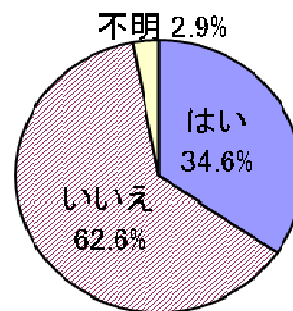


問 15-③ 家具の転倒防止策をしている

調査結果：34.6%（「はい」と答えた割合）[38.2%]

- 家具の転倒防止に備えている人の割合は、34.6%（女性：33.3% [36.2%]、男性：35.9% [40.7%]）[38.2%]に留まっている。
- 備えている人の割合を年代別で見ると、60歳以上が40%前後（最高値：60歳代 41.6%）であるのに対し20～40歳代では30%以下にとどまっている。

③家具の転倒防止策をしている

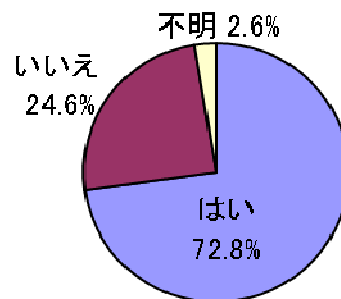


問 15-④ 住宅用火災警報器を設置している

調査結果：72.8%（「はい」と答えた割合）[74.0%]

- 住宅用火災警報器を設置している人の割合は、72.8%（女性：74.5% [75.6%]、男性：70.7% [72.0%]）[74.0%]であった。
- 備えている人の割合を年代別で見ると、30・40・60・70歳代が70%台（最高値：60歳代 75.3%）で、20・50歳代が60%台（最低値：20歳代 65.7%）であった。

④住宅用火災警報器を備えている



問 16 生活している中で、隣近所で助け合い、支え合っていると思いますか？

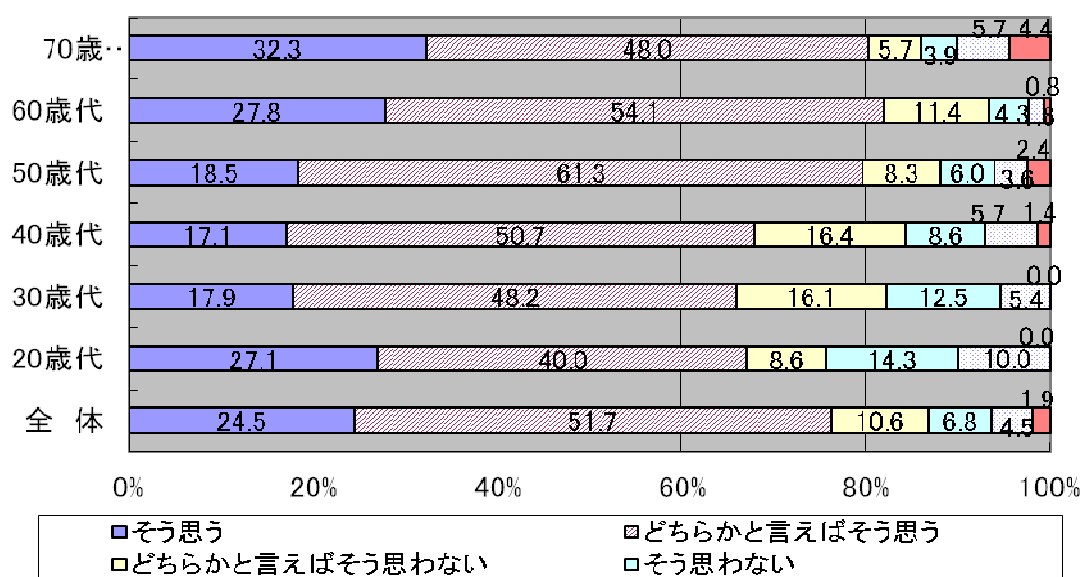
対象施策：共に支えあう地域福祉の推進

成果指標：近隣で支えあいができている市民の割合

調査結果：76.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[75.7%]

- 全体では、「そう思う」：24.5% [26.7%]、「どちらかと言えばそう思う」：51.7% [49.0%] で、隣近所で助け合い支え合っていると感じている人の割合は76.2%（女性：74.7% [76.3%]、男性：78.3% [74.6%]）[75.7%] となっている。一方で、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は17.4% [17.6%] で、2割弱の人が「できていない」と感じている。
- できていると感じている人の割合を年代別で見ると、概ね年齢と共に上昇している（最高値：60歳代82.0%、最低値：30歳代66.1%）。
- 地区別に見ると、南信濃：100%、三穂：90.9%、龍江：89.3%などが高い。

隣り近所で助け合い、支えあっている



問 17 福祉や介護制度により、現在、安心して暮らしていると思いますか？

対象施策：高齢者福祉の推進

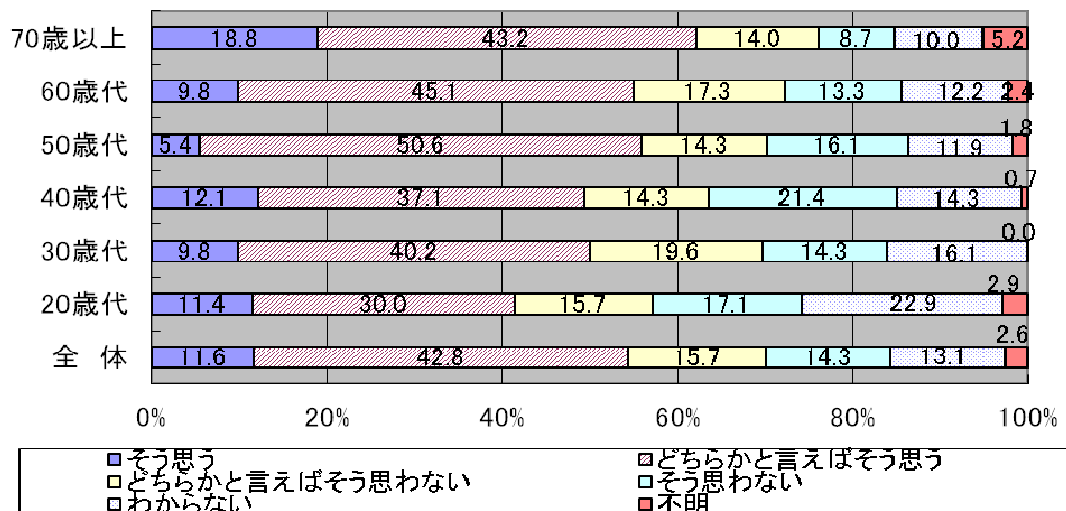
成果指標：安心して暮らせている高齢者の割合（65歳以上に限定）

調査結果：57.5%（65歳以上で「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[64.6%]

- 全体では、「そう思う」：11.6% [12.4%]、「どちらかと言えばそう思う」：42.8% [42.4%] で、安心して暮らせていると感じている人の割合は54.4%（女性：55.6% [56.2%]、男性：53.0% [52.7%]）[54.8%] に留まる一方で、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は30.0% [30.3%] を示している。
- 年代別では、概ね年代が若くなるほど低下する傾向にあり、50歳以上が平均値より高い値を示した（最高値：70歳代62.0%、最低値：20歳代41.4%）。

- 成果指標としては、安心して暮らせていると感じている高齢者（65 歳以上）の割合を見る。今回の調査では 57.5% [64.6%]、365 人 [364 人] 中 210 人 [235 人] である。

福祉や介護制度により安心して暮らしている



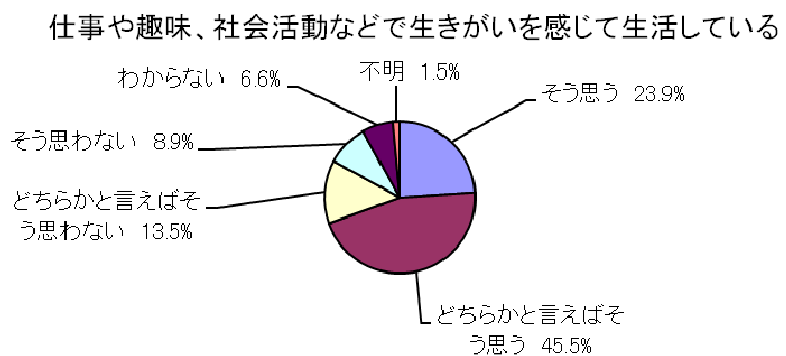
問 18 日頃から仕事や趣味、社会活動などで生きがいを感じて生活していると思いますか？

対象施策：高齢者福祉の推進

成果指標：いきいき暮らせている高齢者の割合（65 歳以上に限定）

調査結果：69.9%（65 歳以上で「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）
[72.5%]

- 生きがいを感じて生活している人の割合は、「そう思う」：23.9% [22.9%]、「どちらかと言えばそう思う」：45.5% [45.8%] で、69.3%（女性：66.9% [67.4%]、男性：72.8% [70.5%]）[68.7%] となっており、生きがいを感じていない人の 22.4%（「そう思わない」：8.9% [12.1%]、「どちらかと言えばそう思わない」：13.5% [12.7%]）[24.8%] を大きく上回っている。
- 年代別では 30 歳代が 75.9% と最も高く、逆に 40 歳代では 65.7% と最も低い。その他の年代では、概ね 70% 前後で推移している。
- 成果指標としては、いきいき暮らせていると感じている高齢者（65 歳以上）の割合を見る。今回の調査では 69.9% [72.5%]、365 人 [364 人] 中 255 人 [264 人] である。

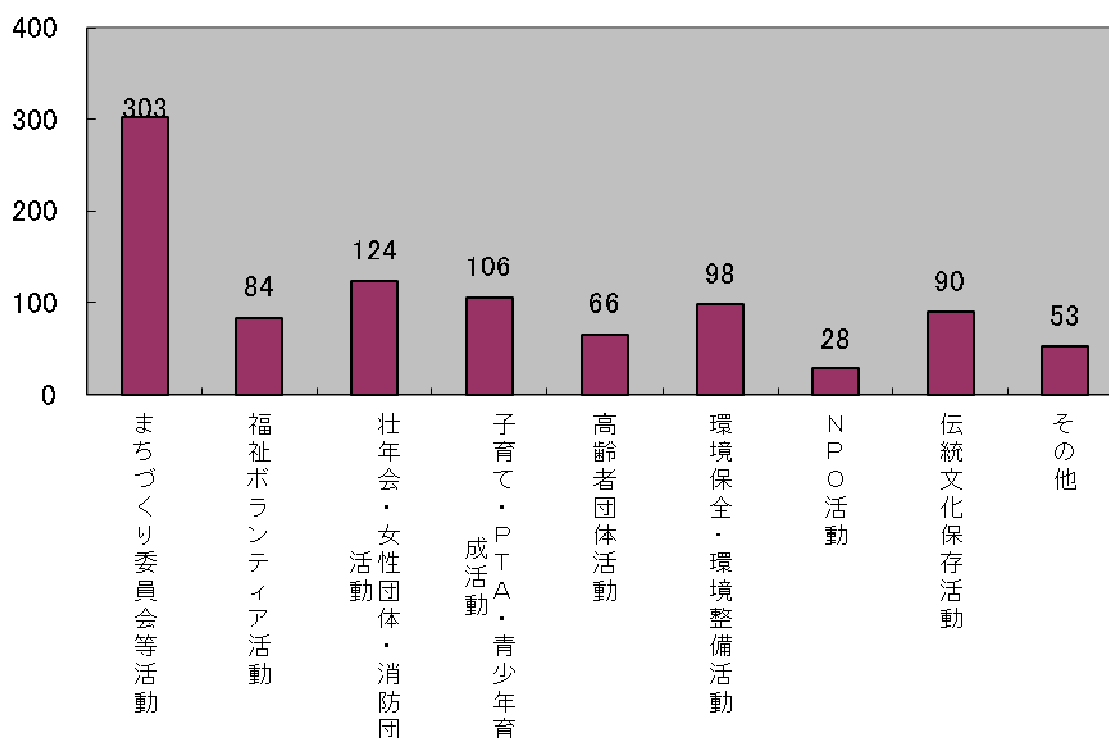


問 19 次のような社会活動に参加していますか？

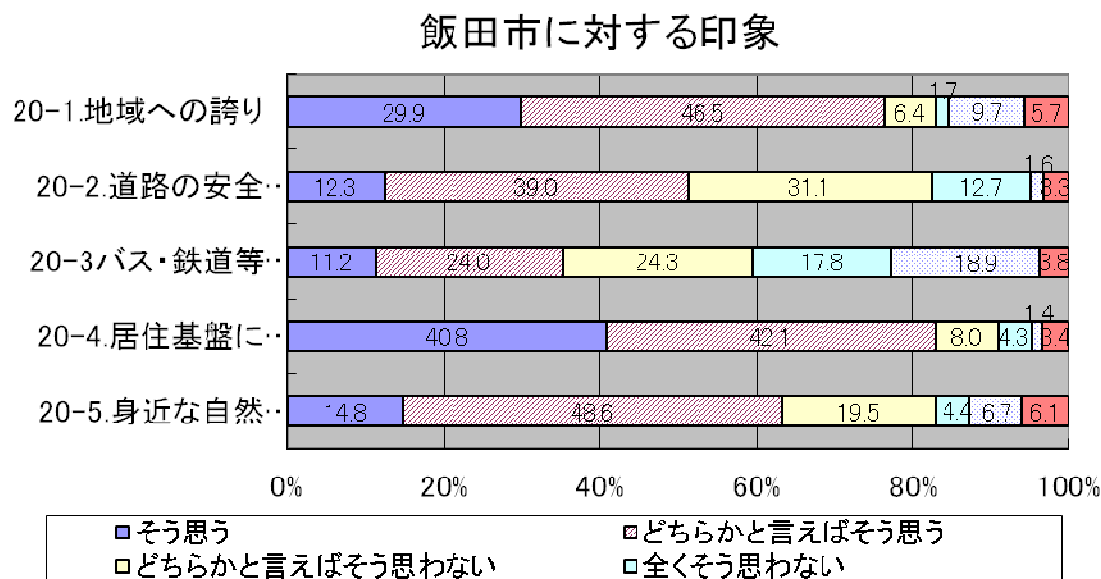
対象施策：学習交流活動の推進
成果指標：社会活動に参画する市民の割合
調査結果：58.3%（何らかの社会活動に参加している市民の割合）[59.0%]
対象施策：自立に向けた住民組織力の向上
成果指標：地域活動に参加している住民の割合
調査結果：58.3%（何らかの社会活動に参加している市民の割合）[59.0%]

- どのような社会活動に参加しているか、関わっているもの全てを回答してもらう設問。全回答者 975 人 [969 人] のうち 568 人 [572 人]（率にして 58.3% [59.0%]）から具体的な回答があった。「まちづくり委員会等活動」：303 人 [279 人]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：124 人 [130 人]、「子育て・PTA・青少年育成活動」：106 人 [102 人] への参加割合が高くなっている。
- 参加割合が高い主な社会活動を男女別で見ると、
男性は「まちづくり委員会等活動」：39.9% [39.5%]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：17.1% [13.4%]、「環境保全・環境整備活動」：15.2% [17.1%] 等。
女性は「まちづくり委員会等活動」：24.2% [21.0%]、「子育て・PTA・青少年育成活動」：14.5% [14.8%]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：9.3% [13.4%]。
- 「自治会活動」や「公民館活動」である「まちづくり委員会等活動」に関わっている人を年代別に見ると、50～60 歳代は 30%以上であるのに対して、40 歳代以下は低い数値を示している（最高値：60 歳代 43.1%、最低値：20 歳代 8.6%）。

参加している社会活動の内容



< 飯田市に対する印象 >



問20-1 地域（飯田の自然・歴史・文化・風土など）を誇りに思っている

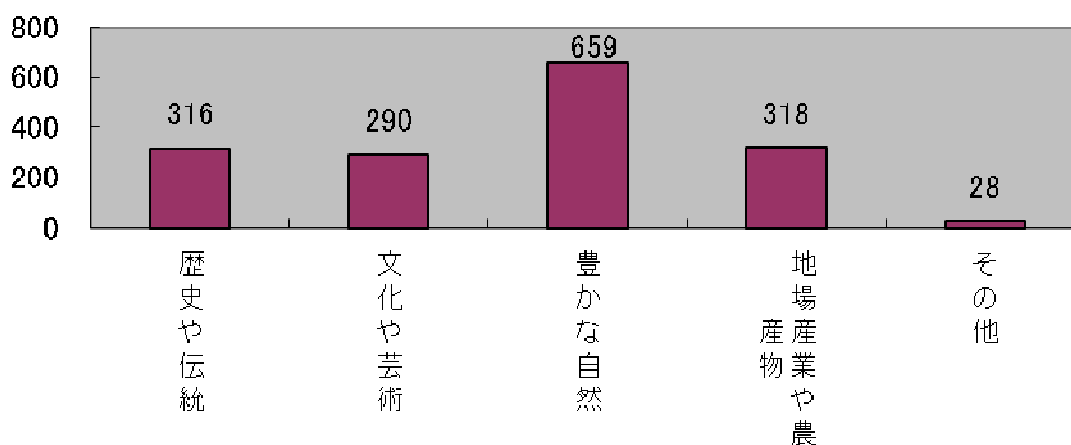
対象施策：ふるさと意識の醸成

成果指標：ふるさとを誇りに思っている市民の割合

調査結果：76.4%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[72.8%]

- 「そう思う」：29.9% [31.0%]、「どちらかと言えばそう思う」：46.5% [41.8%]で、合わせて76.4%（女性：77.1% [71.3%]、男性：76.0% [75.1%]）[72.8%]は誇りに思っていることが伺われる。
- 誇りに思っている人を年代別で見ると、20・60歳代は80%台という高い数値を示している。（最高値：20歳代81.4%、最低値：40歳代70.7%）。
- 地域の誇りと思えるものを尋ねた結果（複数回答可）は、「豊かな自然」：659人[656人]（67.6% [67.7%]）でもっとも多く、以下「地場産業や農産物」：318人[298人]（32.6% [30.8%]）、「歴史や伝統」：316人[285人]（32.4% [29.4%]）、「文化や芸術」：290人[269人]（29.7% [27.8%]）という結果だった。

地域の誇りと思えるもの



問 20-2 普段使っている道路（歩道を含む）は、安全に通行できると思う

対象施策：交通機関と道路の充実（道路）

成果指標：市内の移動に不便を感じる市民の割合

調査結果：43.8%（「どちらかと言えばそう思わない」＋「全くそう思わない」の割合）
[45.3%]

- 全体では、「そう思う」：12.3% [11.1%]、「どちらかと言えばそう思う」：39.0% [38.6%] で、安全に通行できると考えている人の割合は 51.3% [49.7%] に留まっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」：31.1% [32.8%]、「全くそう思わない」：12.7% [12.5%] で、合わせると 43.8% [45.3%] の人が安全に通行できないと感じていることがうかがえる。
- 居住地区別の状況を見ると、次のとおりである。
「安全に通行できる」と感じている人の割合が高い地区は上村で 85.8%、以下、②丸山：73.5%、③山本：61.5%、④座光寺：60.0%、⑤橋北：58.6%の順。
逆に、「安全に通行できない」と感じている人の割合が最も高いのは下久堅で 62.1%、以下、②三穂：54.6%、③上久堅：53.9%、④千代：52.4%、⑤上郷：48.9%という順になっている。

問 20-3 市内のバスや鉄道、乗合タクシーは便利だと思う

対象施策：交通機関と道路の充実（交通機関）

成果指標：市内の移動に不便を感じる市民の割合

調査結果：42.1%（「どちらかと言えばそう思わない」＋「全くそう思わない」の割合）
[46.32%]

- 全体では、「そう思う」：11.2% [9.2%]、「どちらかと言えばそう思う」：24.0% [20.2%] で、便利だと思う人の割合は 35.2%（女性：36.7%[29.4%]、男性：33.4%[29.0%]）[29.4%] で、「どちらかと言えばそう思わない」：24.3% [26.4%]、「全くそう思わない」：17.8% [19.9%] で、不便を感じる人の割合が 42.1%（女性：38.5%[45.2%]、男性：47.0%[48.3%]）[46.3%] である。
- 年代別では、便利だと思っている割合は、70 歳以上の 45.4%で最も高く、以下、年代が若くなるにつれ割合が下降し、30 歳代で最低値の 24.2%であったが、20 歳代では 30.0%と昨年の 21.3%を大きく上回った。

問 20-4 住んでいる地域の居住基盤に満足している

対象施策：居住基盤の向上

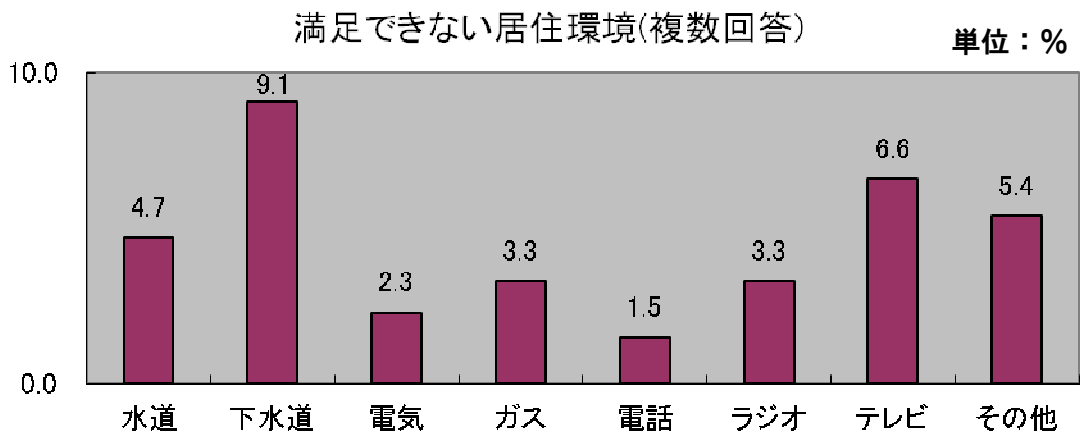
成果指標：居住基盤の満足度

調査結果：82.9%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[80.1%]

- 居住基盤とは、水道、下水道、電気、ガス、電話、TVなどを対象としている。
- 全体では、「そう思う」：40.8% [38.4%]、「どちらかと言えばそう思う」：42.1% [41.7%] で、満足している人の割合は 82.9%（女性：84.9%[80.8%]、

男性：80.8%[79.2%]) [80.1%] で、「どちらかと言えばそう思わない」：8.0% [10.2%] と「全くそう思わない」：4.3% [4.2%] を合わせた 12.3% (女性：10.0%[13.4%]、男性：15.2%[16.1%]) [14.4%] を大きく上回っている。

- 年代別で見ると、20 歳代と 40 歳代を除き、各年代 80%を超える高い満足度を示している。(最高値：60 歳代 87.1%、最低値：40 歳代 75.0%)。
- 満足できない居住基盤としてあげられたものは、多い順で次のとおり。
1 位 下水道:89 人(9.1%)、2 位 テレビ:64 人(6.6%)、3 位 水道:46 人(4.7%)、4 位 ラジオとガス：ともに 32 人 (3.3%)、



問 20-5 身近な自然が守られていると思う

対象施策：身近な自然と生活環境の改善

成果指標：身近な自然は守られていると感じる市民の割合

調査結果：63.4% (「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合) [65.4%]

- 全体では、「そう思う」：14.8% [14.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：48.6% [50.8%] で、合わせて 63.4% (女性：65.0% [66.2%]、男性：62.0% [64.4%]) [65.4%] の人は身近な自然が守られていると思っている。一方で、「どちらかと言えばそう思わない」：19.5% [17.5%] と「全くそう思わない」：4.4% [6.4%] を合わせた 23.9% [23.9%] の人は、自然が守られていないと受け止めている。
- 年代別で見ると、「守られている」と思う割合は、概ね年代が若いほど高くなっている。(最高値：30 歳代 73.2%、最低値：70 歳代 47.1%)。

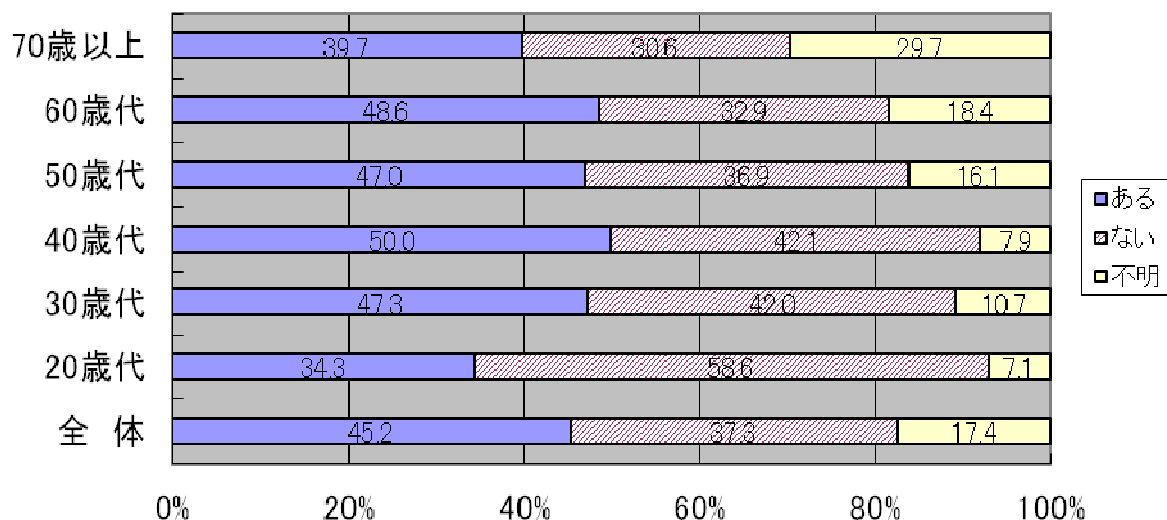
問 21 市内の自然・歴史・文化(財)などの中で、市外の人に紹介したいもの(自慢したいもの、観光等で訪ねてもらいたいところ)がありますか？

調査結果：45.2% (「ある」と答えた市民の割合) [44.5%]

- 市外の人に紹介したいものが「ある」か「ない」かの二者択一で質問したところ、「ある」は 45.2% (女性：44.5% [43.8%]、男性：46.5% [46.1%]) [44.5%] で、「ない」は 37.3% (女性：37.1% [37.4%]、男性：37.6% [42.4%]) [39.6%] で、「ある」が「ない」を若干上回った。

- 年代別で見ると、40 歳代の割合が最も高く（最高値：50.0%）、20 歳代の割合が最も低い（最低値：34.3%）。20 歳代では6割近くが「ない」と回答している。

市外へ紹介したい自然・歴史・文化等がある

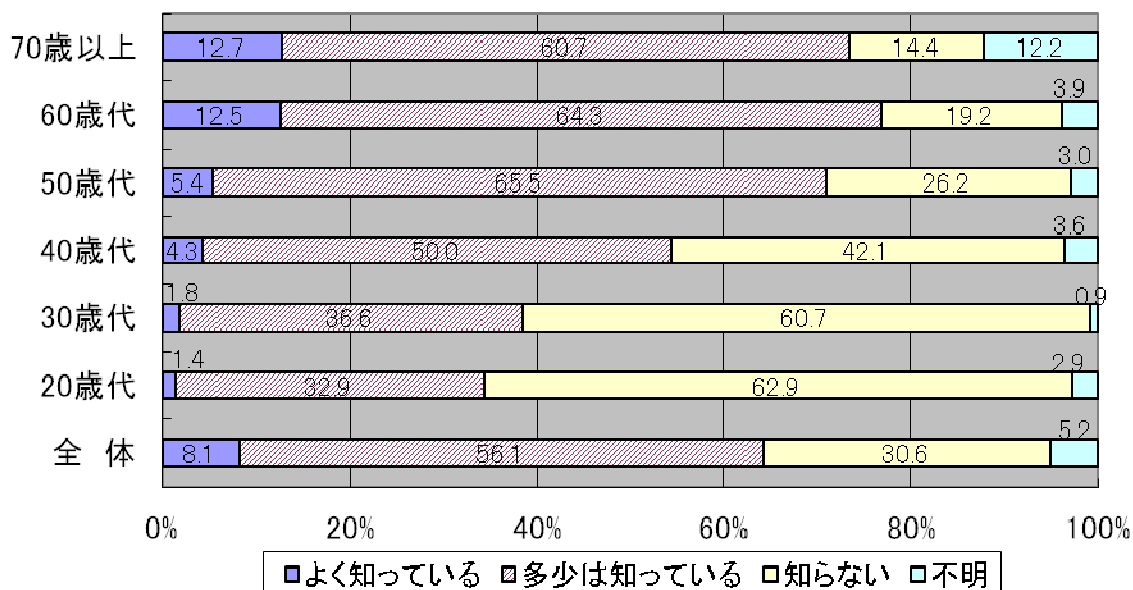


問22 住んでいる地域で行っている活動の内容や課題となっていることを知っていますか？

対象施策：地域情報・課題の相互理解の推進
成果指標：地域の現状を共有できた市民の割合
調査結果：64.2%（「よく知っている」＋「多少は知っている」の割合）[66.9%]

- 「よく知っている」は8.1% [7.3%] で、「多少は知っている」は56.1% [59.6%] で、合わせて64.2%（女性：60.9% [63.2%]、男性：68.6% [72.4%]）[66.9%] が「知っている」と回答しているが、「よく知っている」の割合は低い。「知らない」と答えた人は、30.6% [29.7%] である。
- 年代別に割合を見ると、年齢の上昇に比例して率が上昇していく（最高値：60 歳代 76.9%、最低値：20 歳代 34.3%）。

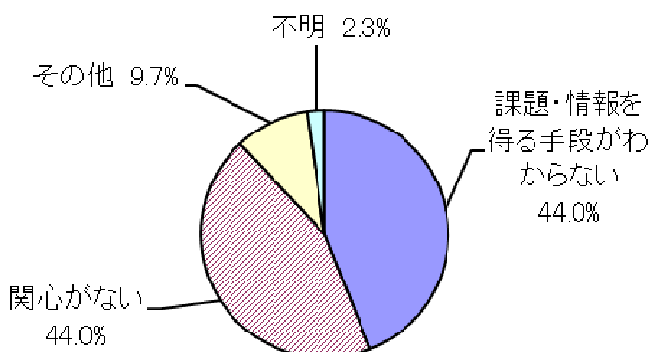
地域の活動や課題を知っている



問23 前問で「知らない」と答えた方に、知らない理由はなぜですか？

- 住んでいる地域で行なっている活動の内容や課題について、前問で「知らない」と答えた298人[288人]にその理由を質問したところ、全体では、「課題・情報を得る手段がわからない」：44.0%[46.5%]、「関心がない」：44.0%[46.2%]と同数という結果だった。

地域の活動や課題を「知らない理由」



- 知らない理由を年代別に見ると、30・40歳代は「課題・情報を得る手段がわからない」が上回り、20・50・60・70歳代は「関心がない」が上回った。

問24 飯田市が、子どもを産みやすい環境（医療体制や支援サービスが充実など）のまちだと思いますか？

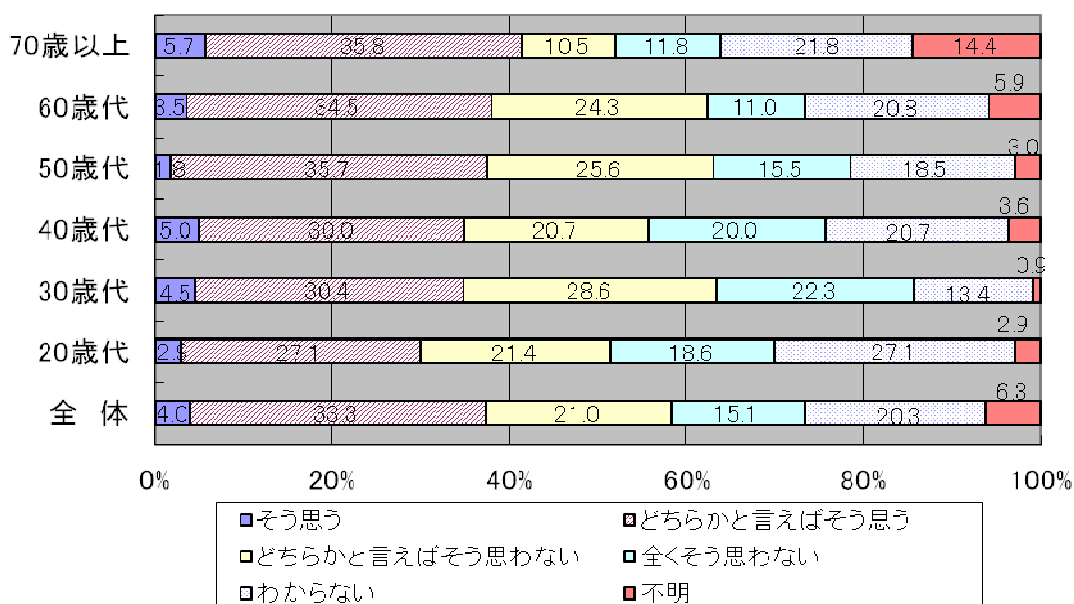
対象施策：子どもを産み育てやすい環境の充実

成果指標：子どもを産みやすい社会環境であると感じている対象者の割合

調査結果：33.9%（20～49歳で「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）[32.8%]

- 全体を見ると、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は37.3%（女性：33.9%[35.7%]、男性：41.7%[37.3%]）[36.4%]。「どちらかと言えばそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた割合は36.1%[35.1%]であり、「思う」と「思わない」が拮抗している。
このうち、20～49歳を「子どもを産む対象者」年齢層と見なして、その回答率を成果指標と捉え、今回の調査では、該当者322人[320人]。「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」が109人[105人]で、割合は33.9%[32.8%]である。
- 産みやすいと思う人の割合を年代別で見ると、バラツキはあるものの年齢の上昇とともに率が上昇していく傾向にある（最高値：70歳代41.5%、最低値：20歳代30.0%）。

子どもを産みやすい環境のまちだと思う



< 現在、18歳未満の子どもを育てている方への質問 >

問25 飯田市が、子育てしやすい環境（育児や保育など）のまちだと思いますか？

（※ 限定質問のため、有効回答記入のあった239人を対象とする）

対象施策：子どもを産み育てやすい環境の充実

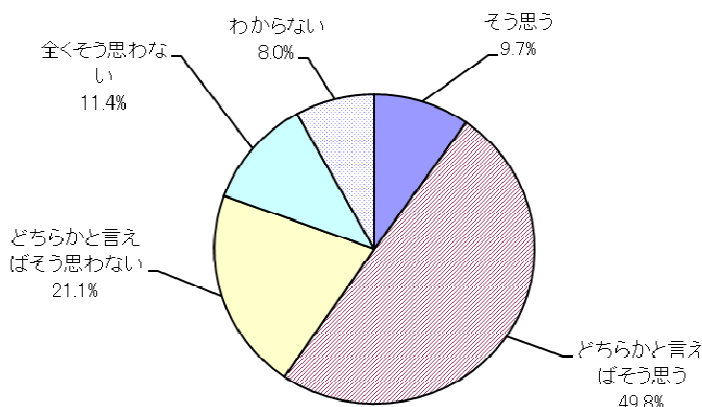
成果指標：子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合

調査結果：59.5%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」対象者の割合）[61.1%]

- 「そう思う」：9.7% [7.5%]、
「どちらかと言えばそう思う」：49.8% [53.6%] で、
「子育てしやすい環境のまち」と思っている人の割合は59.5%（女性：59.0% [65.7%]、男性：60.2% [54.1%]）[63.8%] となった。

- 該当者数にばらつきはあるが、年代別を見ると、「思う」は70歳以上が47.1%と最も低く、30・60歳代が50%台、20・40・50歳代は60%を超えている。（最高値：20歳代66.7%）。

子育てしやすい環境のまちだと思う



問26 どの程度子どもと話したり、一緒に食事をしたりしていますか？

（※ 限定質問のため、有効回答を対象とする）

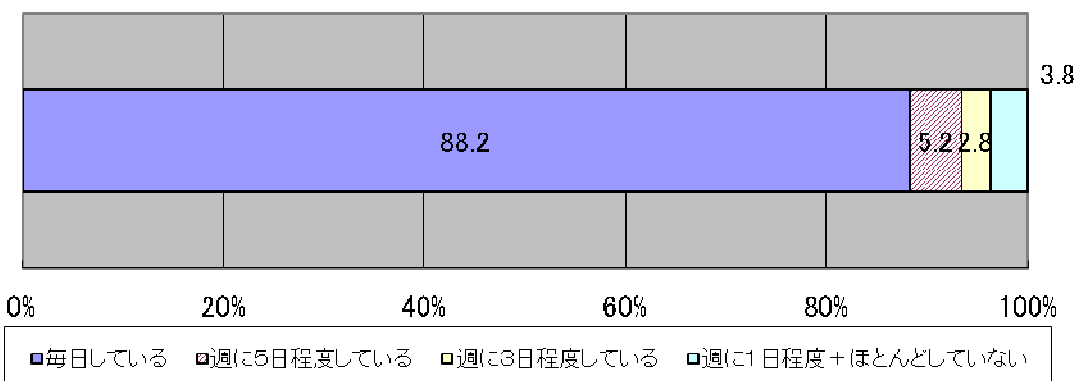
対象施策：家庭教育の充実

成果指標：子どもとコミュニケーションが取れている世帯の割合

調査結果：96.2%（20～59歳までの有効回答者のうち「週3日程度」以上と答えた人の割合）[94.7%]

- 全体では254人から回答があったが、60歳以上の者42人が含まれているため、成果指標としては、20～59歳までの有効回答者のうち「週3日程度」以上と答えた人の割合とした。今回の調査では212人中204人で、96.2% [94.7%] である。
- この結果から、多くの親が子どもと接する機会を持つように努めていることがうかがわれる。

子どもとの会話や食事の頻度（20歳から59歳のみ集計）



< 家族と同居をしている方への質問 >

問27 朝食と夕食を家族と一緒に取ることはどのくらいありますか？

(対象：家族と同居する 902 世帯)

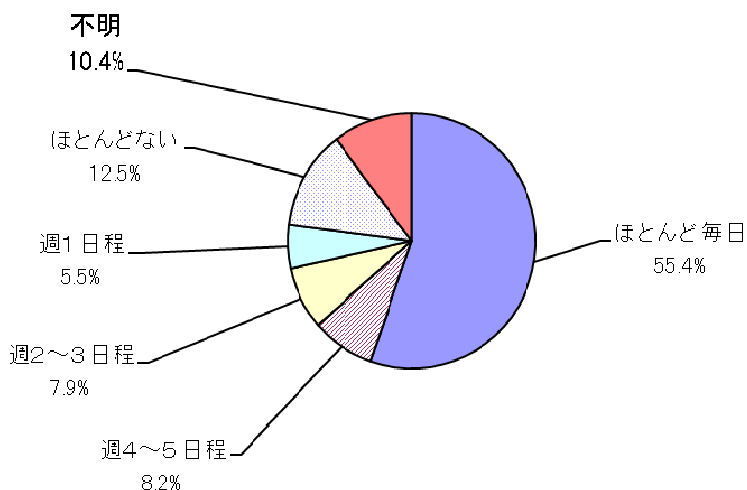
対象施策：心と体の健康づくり

成果指標：朝食と夕食を家族と一緒に取っている世帯の割合

調査結果：朝食 55.4%[60.2%]、夕食 61.3%[63.7%] (家族と同居している回答者のうち「ほとんど毎日」と答えた人の割合)

- 問6から、今回の調査回答者のうち家族と同居する世帯は 902 (夫婦だけ：232、二世帯世帯：425、三世帯世帯：226、その他：19) となっている。そこで、この世帯数を対象にして家族と一緒に朝食や夕食を取る割合を求めることにした。

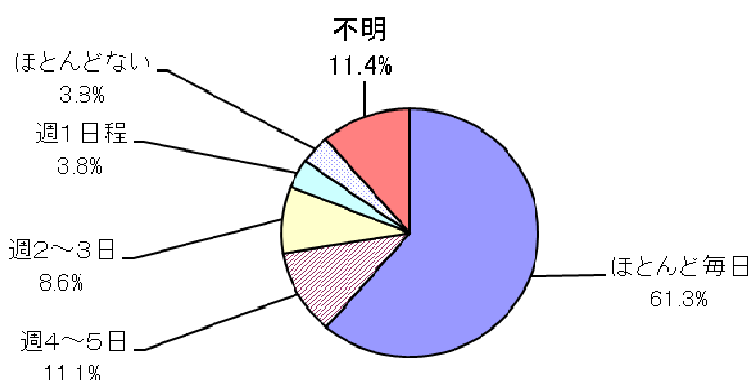
家族と一緒に食事を取る頻度【朝食】



- 朝食は、「ほとんど毎日」：55.4% (女性：62.0%[62.3%]、男性：47.7%[57.8%]) [60.2%]で、「週に4～5日程度」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「ほとんどない」と答えた回答者：34.1% (女性：29.0%[27.7%]、男性：40.6%[31.4%]) [29.3%]を上回った。
- 「ほとんど毎日」と答えた人を年代別で見ると、概ね年齢と比例して上昇していく傾向にある (最高値：60歳代 63.2%、最低値：20歳代 42.2%)。

- 夕食は、「ほとんど毎日」：61.3% (女性：69.2%[69.8%]、男性：52.1%[56.2%]) [63.7%]で、「週に4～5日程度」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「ほとんどない」と答えた回答者：27.3%

家族と一緒に食事を取る頻度【夕食】



- (女性：20.8%[19.6%]、男性：35.0%[31.7%]) [24.8%]を大きく上回った。
- 「ほとんど毎日」と答えた人を年代別で見ると、年代によりバラツキがあり、特段年齢層による傾向は見られない(最高値:30歳代 71.3%、最低値:70歳代 54.6%)。

< 飯田市の政策や運営、職員について >

問 2 8 市役所からのお知らせや市政の情報など、必要とする情報を充分入手できていると思いますか？

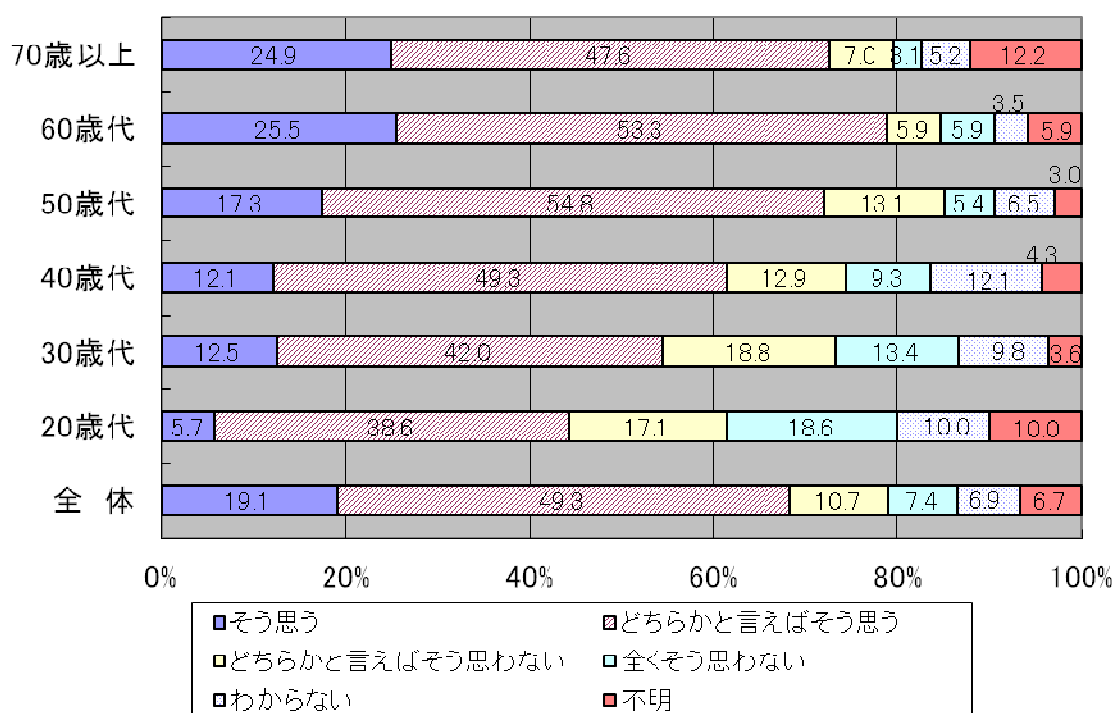
対象施策：情報共有の促進

成果指標：知りたい行政の情報が充分に入手できていると感じている市民の割合

調査結果：68.4%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[67.0%]

- 「そう思う」：19.1% [20.3%]、「どちらかと言えばそう思う」：49.3% [46.7%]を合わせて 68.4%（女性：69.5% [66.3%]、男性：67.1% [68.3%]）[67.0%]となり、6割以上の人は必要とする情報を入手できていると考えていることを示している。
- 年代別で見ると、概ね年齢層に比例して若くなるほど数値が低くなる傾向にあった（最高値：60歳代 78.8%、最低値：20歳代 44.3%）。

市政の情報など必要な情報を充分入手できている



問 2 9 市民が市政について要望等を言える機会が設けられていると思いますか？

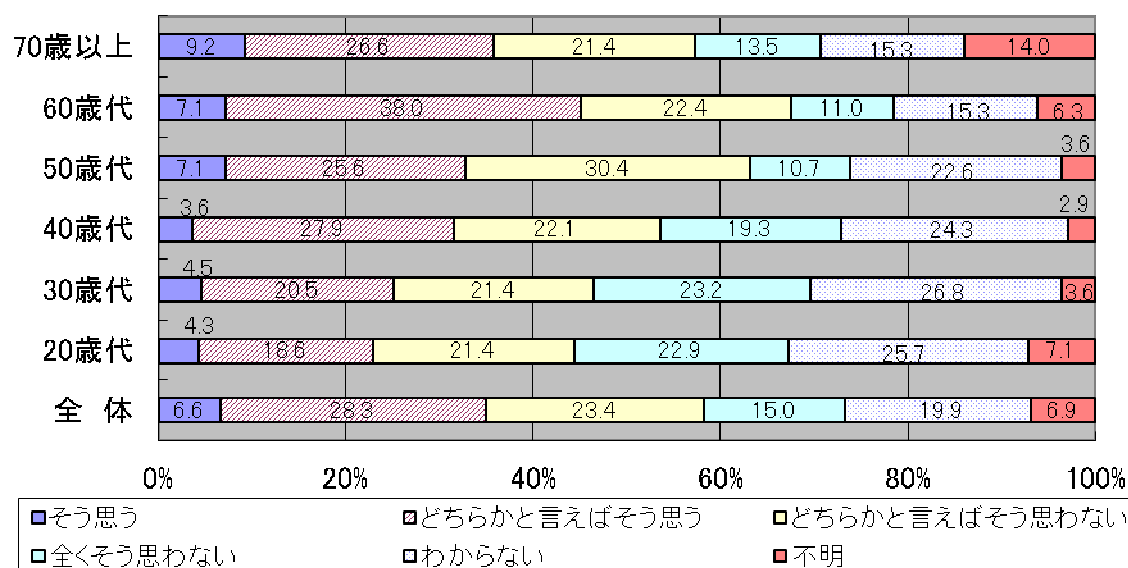
対象施策：情報共有の促進

成果指標：市民の意見が行政に反映されていると認識している市民の割合

調査結果：34.9%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[36.4%]

- 「そう思う」：6.6% [6.7%]と「どちらかと言えばそう思う」：28.3% [29.7%]を合わせて 34.9%（女性：33.0% [32.5%]、男性：37.3% [42.0%]）[36.4%]であり、「どちらかと言えばそう思わない」：23.4% [22.6%]と「全くそう思わない」：15.0% [14.1%]の計 38.4%（女性：34.1% [32.9%]、男性：43.8% [42.2%]）[36.7%]と、そう思わない人が上回った。
- 年代別に見ると、「そう思う」人は、概ね年齢層に比例して若くなるほど数値が低くなる傾向にあった（最高値：60歳以上 45.1%、最低値：20歳代 22.9%）。

市民が市政に要望等を言える機会が設けられている



問30 市民と行政による協働のまちづくりが進められていると思いますか？

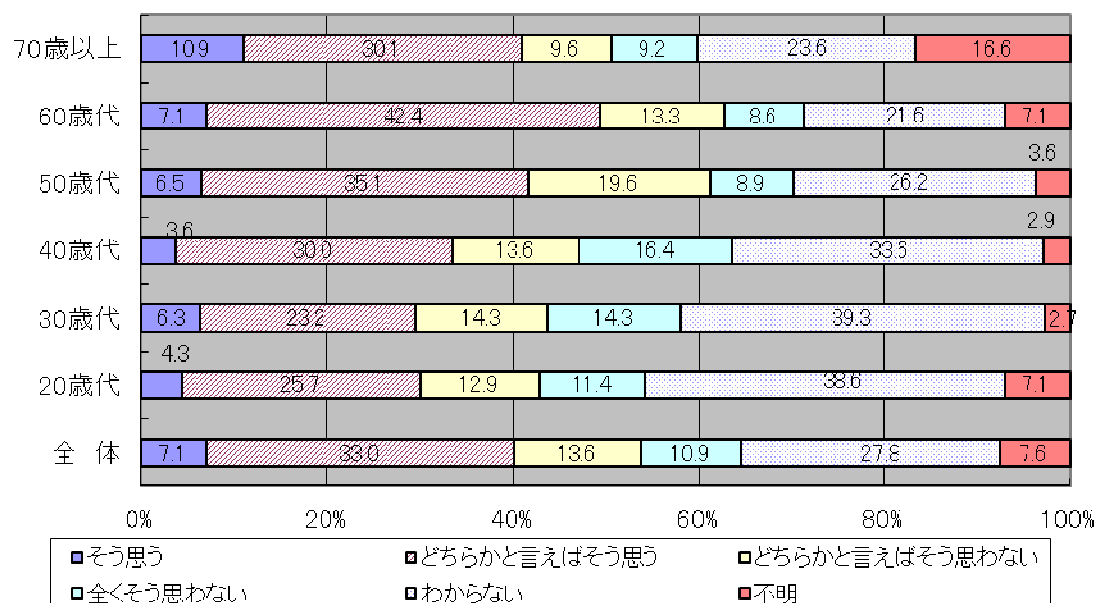
対象施策：市民参画による協働の促進

成果指標：協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合

調査結果：40.1%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[38.2%]

- 「市民と行政による協働」という市政運営の基本的な概念について質問したが、全体では、「進められていると思う」：40.1%（女性：38.4%[35.1%]、男性：42.4%[42.7%]）[38.2%]、「進められていると思わない」：24.5%（女性：17.7%[18.6%]、男性：32.9%[29.7%]）[23.5%]で、「進められている」が上回った。ただし、「わからない」との回答が27.8%（女性：36.3%[34.9%]、男性：17.5%[20.3%]）[28.2%]あった。
- 進められていると思う人の割合を年代別で見ると、概ね年齢層に比例して若くなるほど数値が低くなる傾向にあった（最高値：60歳代 49.4%、最低値：30歳代 29.5%）。また、「わからない」も年齢に比例して若くなるほど上昇していく傾向にある。

市民と行政による協働のまちづくりが進められている



問 3 1 飯田市にとって三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思いますか？

対象施策：三遠南信・中京圏の連携推進

成果指標：三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合

調査結果：72.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[71.9%]

○ 「そう思う」：38.7%

[38.6%]、「どちらかと言
えばそう思う」：33.5%

[33.3%] で、合わせて

72.2%（女性：67.4%

[65.7%]、男性：78.4%

[80.7%]）[71.9%] とな

り、7割以上が重要と思

っている。

○ 重要と思っている人の割

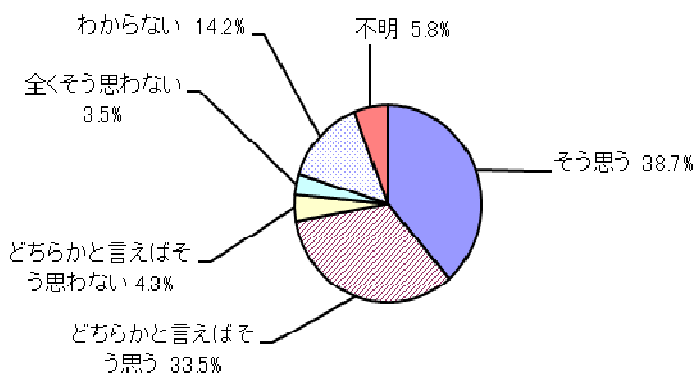
合を年代別で見ると、

20・30歳代が5割前半

で、40歳代以上は7割台と差が生じた（最高値：50歳代 80.3%、最低値：20歳

代 57.2%）。

三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思う



問 3 2 市役所の行政サービスに関する申請手続きや方法に満足していますか？

対象施策：良質な行政サービスの提供

成果指標：市役所の行政サービスに関するシステムに満足している市民の割合

調査結果：62.2%（「とても満足している」＋「どちらかと言えば満足している」の割合）[61.0%]

○ 「とても満足している」：7.1% [5.9%]、「どちらかと言えば満足している」：55.1%

[55.1%] で、合わせて 62.2%（女性：58.7% [58.3%]、男性：66.8% [64.9%]）

[61.0%] が「満足している」と回答している。

一方、「どちらかと言えば不満である」：10.3% [11.2%]、「とても不満である」：4.0%

[3.7%] で、合わせて 14.3%（女性：13.4% [13.4%]、男性：15.4% [17.0%]）

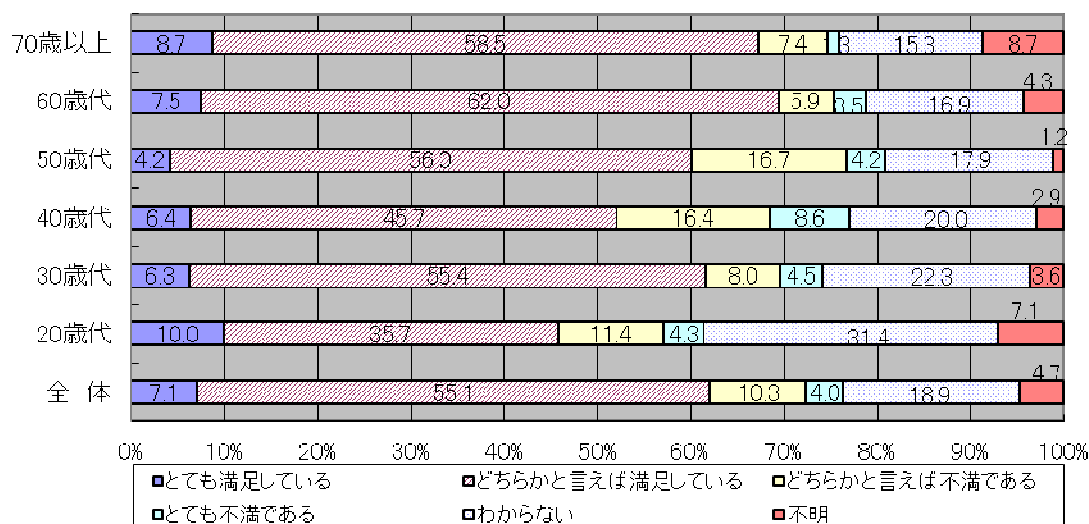
[14.9%] の市民が市役所の行政サービスに関するシステムに不満を持っている。

○ 「満足」の割合を年代別で見ると、概ね若い世代ほど割合が低くなる傾向にあった

（最高値：60歳代 69.4%、最低値：20歳代 45.7%）。また、「わからない」と答える

人の割合も比較的若い世代に多く、20歳代では31.4%となっている。

市役所の行政サービスに関する申請手続きや方法への満足度



問3-3 市役所の職員の対応に満足していますか？

対象施策：良質な行政サービスの提供

成果指標：行政サービスにあたる市役所職員の対応に満足している市民の割合
(職員の資質・接遇等)

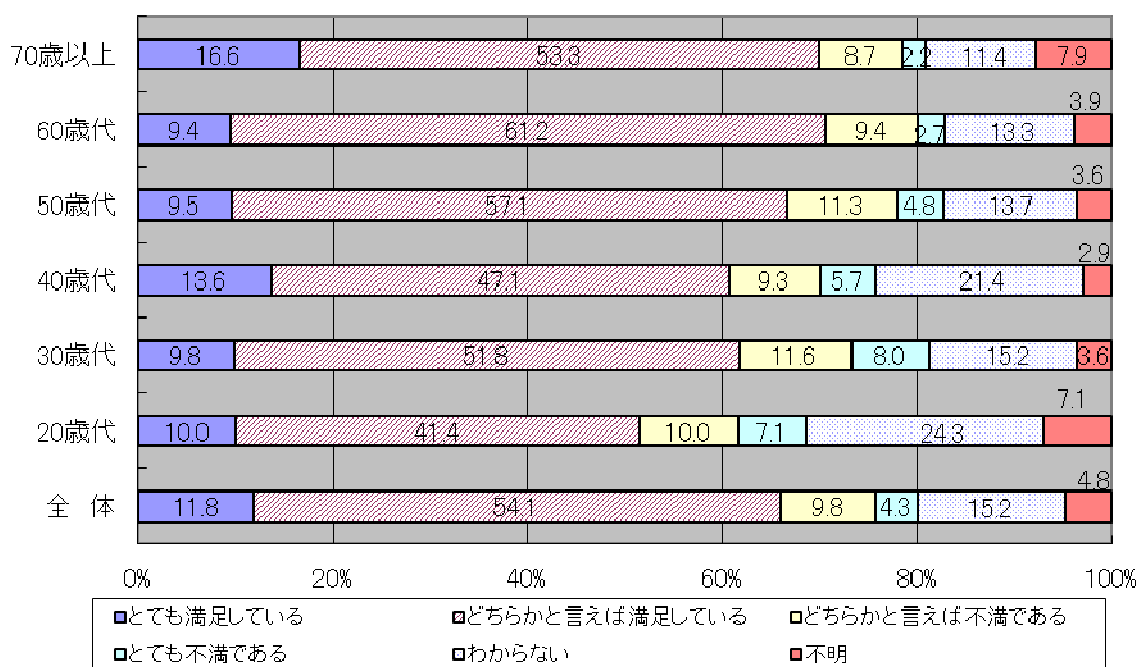
調査結果：65.9% (「とても満足している」+「どちらかと言えば満足している」の割合) [68.1%]

- 「とても満足している」：11.8% [9.6%]、「どちらかと言えば満足している」：54.1% [58.5%] で、合わせて 65.9% [68.1%] (女性：64.0% [66.3%]、男性：68.5% [71.0%]) が「満足している」と回答している。

一方、「どちらかと言えば不満である」：9.8% [10.9%]、「とても不満である」：4.3% [4.0%] で、合わせて 14.1% (女性：13.6% [14.3%]、男性：14.9% [15.9%]) [14.9%] の市民が市役所の行政サービスに関するシステムに不満を持っている。

- 「満足」の割合を年代別で見ると、年代層に比例して割合が上昇していく (最高値：60 歳代 70.6%、最低値：20 歳代 51.4%)。また、「わからない」と答える人の割合も比較的若い世代に多く、20 歳代では 4 人に 1 人がわからないと回答した。

市役所の職員の対応への満足度



問3-4 市で行っている事業や住民サービス全般に対して信頼していますか？

対象施策：評価や監査による信頼の確保

成果指標：市役所を信頼できると感じている市民の割合

調査結果：66.7% (「信頼できる」+「どちらかと言えば信頼できる」の割合) [64.2%]

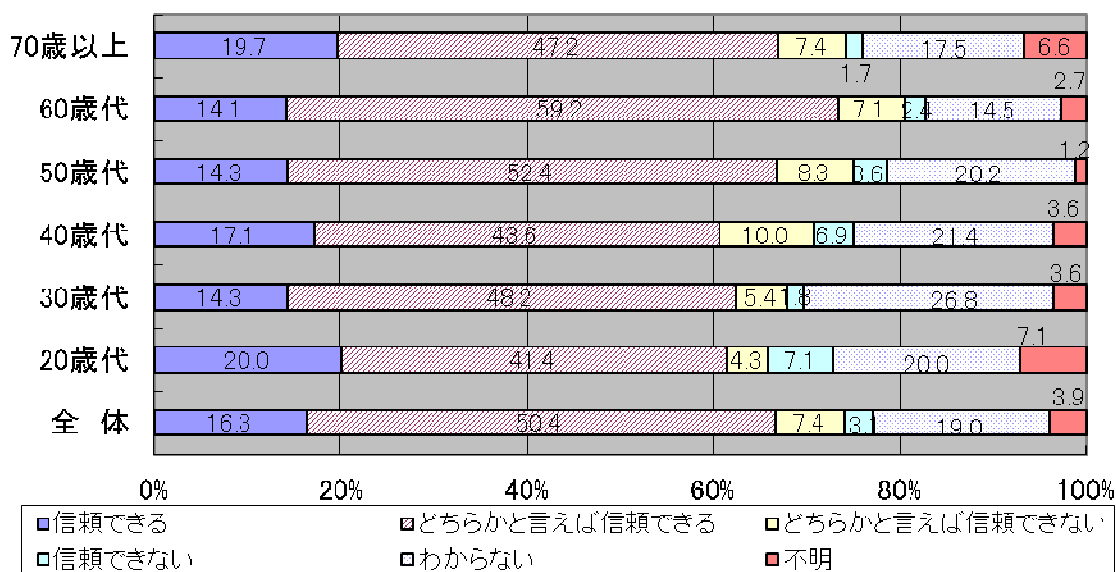
- 「信頼できる」：16.3% [13.6%]、「どちらかと言えば信頼できる」：50.4% [50.6%] で、合わせて 66.7% (女性：63.7 [63.1%]、男性：70.7% [65.9%]) [64.2%] が「信頼できる」と回答している。

一方、「どちらかと言えば信頼できない」：7.4% [9.5%]、「信頼できない」：3.1% [3.7%] で、10.5% (女性：9.1% [10.5%]、男性：12.0% [17.1%]) [13.2%] の市民が「信頼できない」としている。

- 「信頼」の割合を年代別で見ると、概ね若い世代ほど割合が低くなっている (最

高値：60 歳代 73.3%、最低値：40 歳代 60.7%)。また、「わからない」の割合も比較的若い世代に多く、30 歳代では4人に一人がわからないとしている。全体でも 19.0%[19.5%]と高い数値を示している。

市の事業や住民サービス全般に対して信頼している



問35 これからも飯田市に住み続けたいと思いますか？

調査結果：83.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[81.8%]

- 「そう思う」：56.5% [57.4%]、「どちらかと言えばそう思う」：26.7% [24.4%]で、飯田市に住み続けたいと思う市民の割合は、83.2%（女性：81.2% [83.7%]、男性：85.7% [79.3%]）[81.3%]と高い割合を示している。

一方、「どちらかと言えばそう思わない」：4.5% [5.2%]、「全くそう思わない」：2.9%[4.0%]で、住み続けたいと思わない市民の割合は7.4%（女性：8.5% [8.3%]、男性：5.9% [10.5%]）[9.2%]であった。

- 「住み続けたい」割合を年代別に見ると、年代の上昇に比例して率が上昇していく（最高値：70 歳代 88.2%、最低値：20 歳代 70.0%）。

これからも飯田へ住み続けたいと思う

